

## 第 6 章 景観認知

### 第 1 節 語り継がれる景観

#### (1) 最上川の舟運航路を伝える要素

大江町の左沢は五百川峡谷出口にあたる（第 1 章第 2 節）。左沢より上流の最上川では、峡谷部を流れる河川の地形や、舟運の難所や目印となった地形を見ることができる。

最上川舟運が河口の酒田から上流の米沢藩領までつながったのは、元禄年間の西村久左衛門による開削以降である。大江町の左沢と用の間にも、この時の開削跡とされる地形が最上川の河底に残っている。

大江町内で最も上流に位置する用の集落の北側には、川と山頂で 150 m の比高差がある岩の絶壁「明神ハゲ（用のハゲ）」があるが、江戸時代の名所とされ、その山頂には巖島神社があって、水上交通の安全を祈る人の参詣があった。下流の左沢に向かうと、藤田を流れる最上川には難所「左巻」があり、また、左巻から流れ下った川が蛇行する難所とその目印で、山頂の稻荷大明神が水上安全の神として信仰された「大明神山」がある。このように、最上川が舟運に利用されたことで名前がついたと考えられる自然景観や信仰と関わる景観が、現代に継承されている。

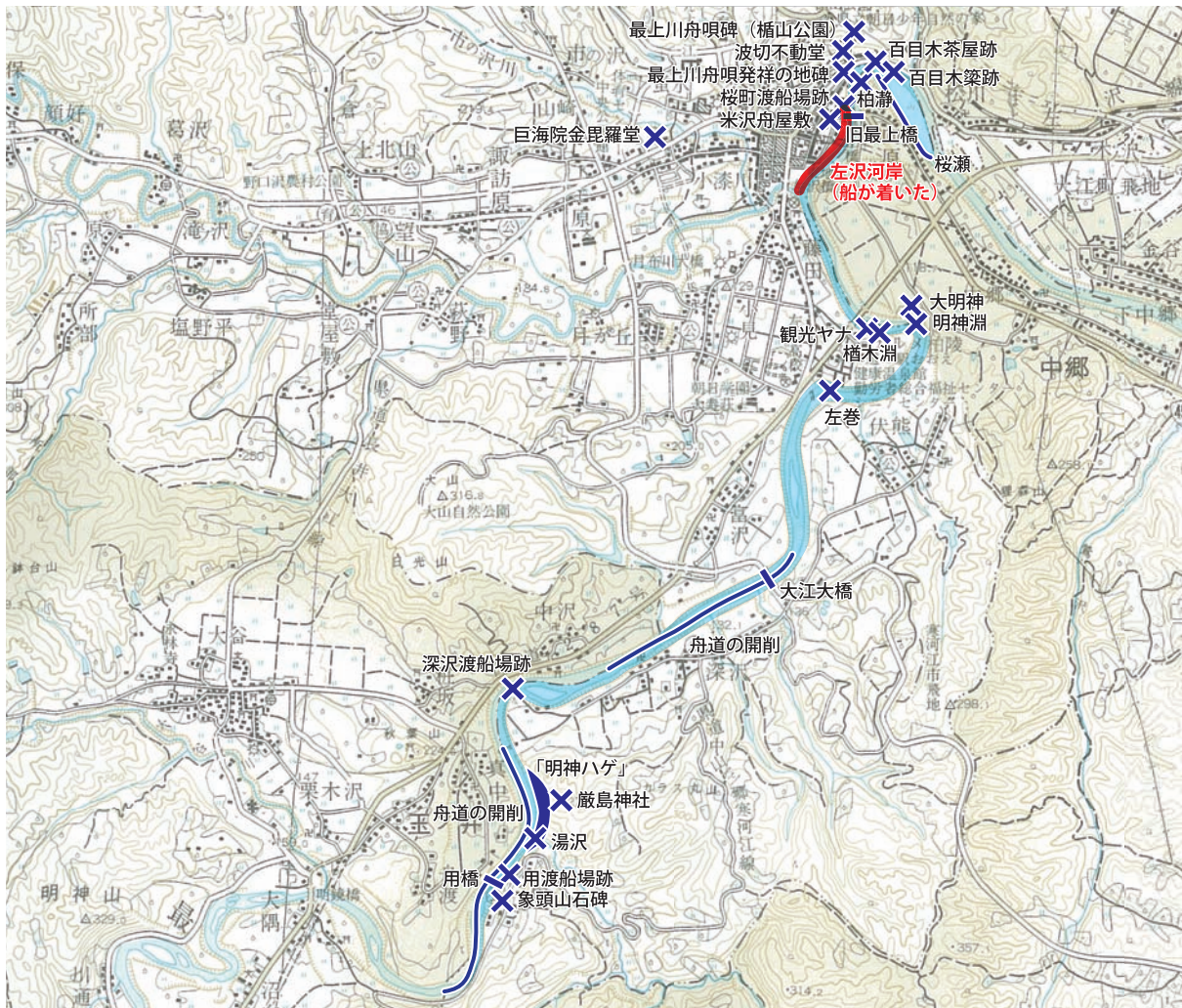


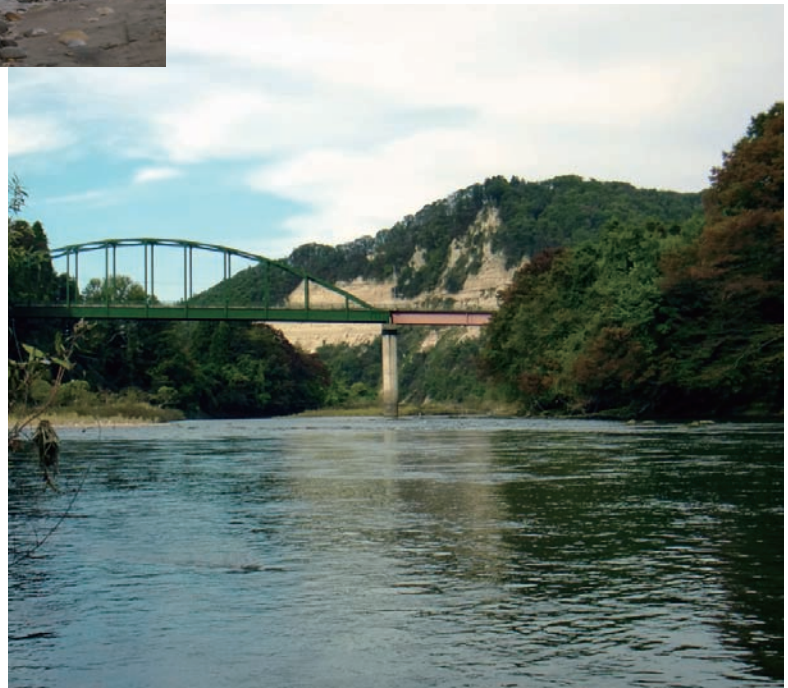
図 6-1 最上川に残る舟運の痕跡や地名

明治 17 年（1884）、斎藤茂吉が庄内へ旅行し、その途中で左沢に一泊した。そのとき百目木で目にした最上川舟運の様子について「向こうの断崖に沿うた僅かばかりの平地をば舟を曳いてのぼるのが見える。人が二、三人前ごみにのめるやうにして綱を引いてのぼつてゐる」と記している（「最上川」『斎藤茂吉選集 第十二卷 随筆』）。

向こうの断崖は左沢対岸の中河原であり、現在、綱手道の遺構をみることはできないが、かつてそこに舟を曳くための綱手道が造られ、使われている様子をよみとることができる。



難所「左巻」付近



明神ハゲ（用のハゲ）



舟道の開削跡と伝わる地形



月布川合流点付近から川端

(2) 最上川及び舟運と関わる要素

① 最上川舟唄

現在唄われている最上川舟唄は、渡辺国俊（1905 - 1957）が編詞、後藤岩太郎（1891 - 1953）が編曲したものである。渡辺は左沢元屋敷育ち、後藤は左沢下小漆川の生まれで、左沢の菊地政五郎一家の後援を得ていた。

「世界三大舟唄の一つとさえ数えられる最上川舟唄は水郷大江町左沢の民謡家後藤岩太郎翁によって大成された。翁は舟唄を訪ねて各地を巡り、又、自らも舟に乗って櫂に合わせて声を練り」渡辺国俊氏などの協力を得て、現在に伝わる最上川舟唄が名声を博するに至った（「最上川舟唄碑」）。

最上川舟唄

渡辺国俊 編詞  
後藤岩太郎 編曲

前掛声

ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ  
エエヤエーエヤエーエ エーエヤ エード  
ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ

二本唄

基点隼やれ三方の瀬も  
ヨイトコラサノセー

掛声

達者でくだったど頼むぞえ  
エエヤ エーエヤ エーエ エーエヤ エード  
ヨーエ サノ マツガシヨ エンヤコラマーガセ  
あの女居んねげりあ 小鶺鴒乗もすねがったちゃ  
エーエヤ エーエ エーエヤ エード  
ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ

一本唄

酒田さ行ぐさげ達者でろちゃ  
ヨイトコラサノセー

三本唄

山背風だよあきらめしやんせ  
ヨイトコラサノセー

掛声

流行風邪などひがねよに  
エエヤエーエヤエーエ エーエヤエード  
ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ  
股大根の塩汁煮  
塩しよぼくてくらわんにやえちや  
エーエヤ エーエ エーエヤ エード  
ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ

掛声

おれをうらむな風うらめ  
エエヤ エーエヤ エーエ エーエヤ エード  
ヨーエサノ マツガシヨ エンヤコラマーガセ  
あの女ためだ 何んぼとつても足らんこたんだ  
エーエヤ エーエ エーエヤ エード  
ヨーエサノマツガシヨ エンヤコラマーガセ

最上川の川沿いには多くの舟唄が残っていた。「昔、酒田通いの舟が最上川の急流を上り下りし、勇ましい掛声と共に舟人の歌声が高らかに響きわたった。そしていつの間にか波を越えて川沿いの村々にこぼれ落ちた」（「最上川舟唄碑」）という。現在も伝わる左沢発祥の最上川舟唄には、かつて舟運に生きた人々の様子がいきいきと歌われている（『「最上川流域の文化的景観」調査報告書』）。

現在左沢では、最上川と市街地を見下ろす楯山公園に後藤岩太郎の業績をたたえる「最上川舟唄碑」、元屋敷の百目木に「最上川舟唄発祥の地」の碑が建てられ、最上川舟唄が顕彰されている。

また、大江町では「最上川舟唄保存会」が結成され、舟唄の普及に伴って「最上川舟唄踊り」が踊られている。毎年「正調最上川舟唄全国大会」も開催される。さらに、町の若者の団体が最上川舟唄をアレンジしたヒップホップダンスを創造し、コーラスグループや大江中学校の生徒が混声合唱として歌うなど、最上川舟唄は現在も大江町民に親しまれている。



最上川舟唄碑（楯山公園）



「最上川舟唄発祥の地」碑（百目木）



最上川舟唄保存会による唄と踊り



正調最上川舟唄全国大会



町の若者（ムーブ）によるヒップホップダンス



町のコーラスグループ（エコー）が歌う最上川舟唄

## ② 百目木甚句と百目木茶屋唄

最上川が左沢楯山城の真下で直角にカーブする付近に清水屋、通称「百目木茶屋」といわれる大きな料亭があった。明治 17 年に建てられたという元所有者の証言がある（『歴史の証言』）。

現在は道路拡張のため取り壊され、その跡地から 100 m ほど西、「最上川舟唄発祥の地」と記された碑のそばに「百目木茶屋跡」の碑が建立されている。この百目木と呼ばれる場所は、江戸時代から 2 つの築場が作られたことでも知られていた。「百目木茶屋唄」の歌詞にあるように、後年、この築場で捕れる鮎をはじめとする川魚を料理して提供する場として百目木茶屋が作られて、賑わいを示したのであろう。

2009 年 9 月 3 日、橋上地区の柏倉清助氏（昭和 6 年生まれ）からの聞き書き調査では、百目木茶屋はたいそう大きな建物であり、落ち鮎がとても美味しかった記憶があるという話を聞くことができた。鉄道が通る以前の明治時代中・後期頃まで最上川舟運はまだその使命を終えておらず、左沢を起点に上り下りする船頭衆たちにとって百目木茶屋は疲れた体を休めて飲食できる憩いの場所だったと思われる。

この茶屋の飯盛女たちが歌い始めたのが「百目木甚句」であり、酒田甚句とも共通で熊本県の民謡「おてもやん」の節を織り込んだ賑やかな唄だという（『山形県大百科事典』）。

以下で「百目木茶屋唄」と「百目木甚句」の歌詞についてみてゆきたい。

## 「百目木茶屋唄」

茶屋は百目木<sup>どうめき</sup> 二階の景色 前を流るる 最上川  
夏は清水 てんを浮かして 見事に咲かせた かきつばた  
上り下りの 船のかずかず 夕暮涼しき 中河原  
梁にござれや どんどん 鱒でも鯉でも とれ次第  
ちよいとあがらんせ

この歌詞からは茶屋は二階建てであり、カーブを大きく描いて流れる最上川の絶景を楽しむことができる位置にあったようである。「上り下りの船のかずかず」とあって、まだまだ舟運が活躍していた時代とその情景がうかがわれる。「梁にござれやどんどん」とあるので、築漁でとれた鮎はもちろん鱒、鯉などの料理が客に提供された様子で、築場と一体となって百目木茶屋は発展したのであろう。

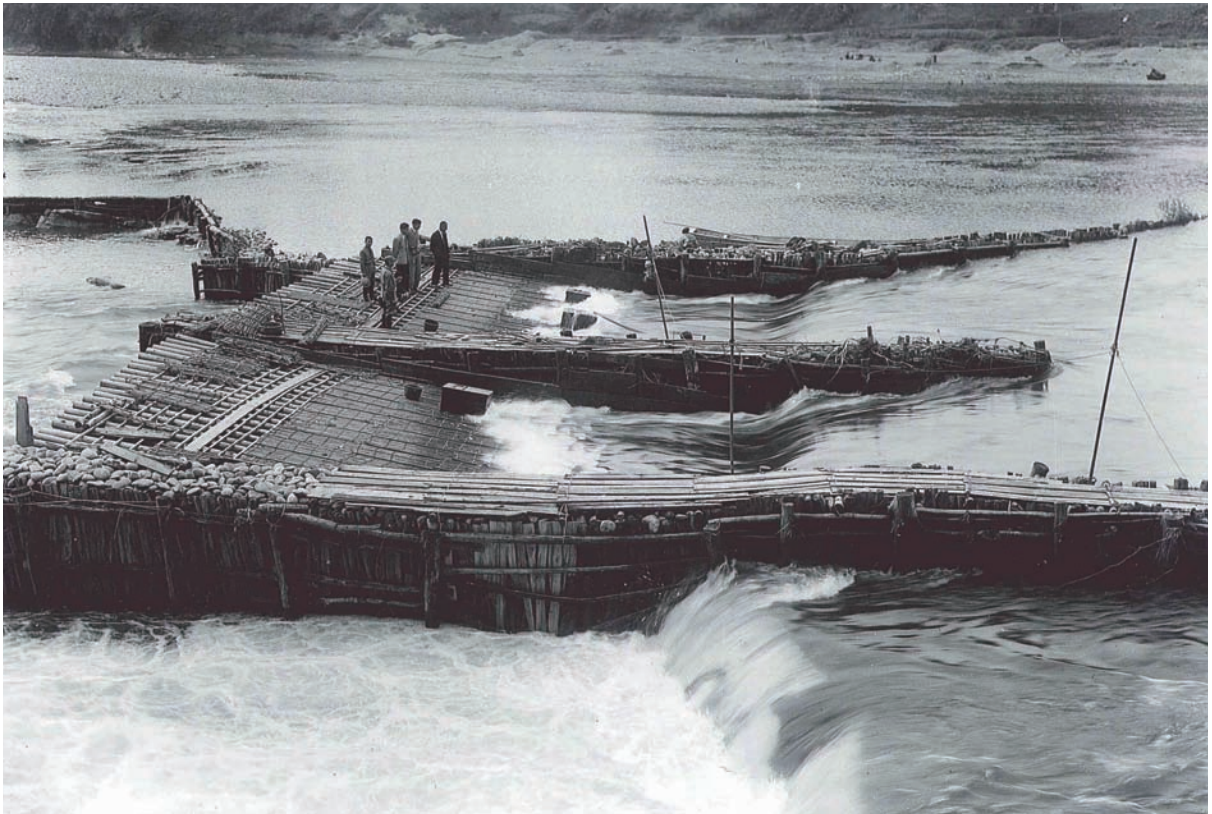
## 「百目木甚句」

ハアー あてらざわ  
御日市<sup>おまち</sup>帰りに百目木の茶屋で 一ぱい飲んで眺むる最上川  
向こうに見えるは何じゃいな 上杉さんのお米蔵  
どんと積んで下すは酒田船  
ハアー あてらざわ  
お米山と積んで帆を巻きあげて 今日も下るぞ酒田船  
いつごろお帰り 風次第 荷物は何々 松前の  
にしん こんぶに たら かすべ 京の友禅 博多帯  
おみやげ話は たんとたんと

この歌詞で「上杉さんのお米蔵」とあるのは、江戸時代から旧最上橋のもとに作られた米沢藩左沢陣屋（舟屋敷）のことである。舟運の歴史的な事実を盛り込んで描写している。「お米山と積んで帆を巻き上げて下る酒田船」というのもじつにリアルに歌い込んでいる。「松前のにしん、こんぶ、たら、かすべ、京の友禅、博多帯」と品々を並べているが、帰り荷として北前船が北海道に向かったときの商品と、上方へ上ったときの商



百目木茶屋（菊地写真館提供）



百目木築（菊地写真館提供）

## 第 I 部 保存調査編

品を区分けしながら的確に歌い上げている。そして「おみやげ話」を「たんとたんと」と最後に挿入して、船乗衆の帰りを待つ飯盛女たちの心情をさりげなく吐露している。まさに最上川舟運時代の左沢の繁栄ぶりの一端を歌い上げたみごとな座敷唄である。

そして「百目木甚句」は、米沢や酒田のほか松前、京、博多と全国的な地名を織り込みながら、左沢における最上川舟運の景観を描きだしており、内陸の左沢においても舟運を通じて全国規模のスケールの流通・往来が認知された様子がうかがえる。

なお、百目木付近の最上川には「柏漣」と呼ばれる場所がある。左沢対岸の崖の傾斜した地層が、最上川に映った様子が柏の葉のようなので、この名前がついたという。

百目木の景観については、近世以降の記録にもみることができる。

昭和以降では、昭和元年、9年、15年の「山形縣西村山郡左澤町勢一覧」で「百目木柏漣」が名所として紹介されている。昭和34年(1959)の「左沢町 町勢のしおり」の「観光」「名所」では、「日本一公園」とともに、「対岸に百目木茶屋があり景勝と川魚の味覚をもって往時より知られている」と紹介されており、百目木と柏漣が左沢の名所として認識されていたことが分かる。

このように、百目木甚句を通じた認知は舟運時代の往来のスケールを伝えるとともに、百目木そのものも各時代の景観認知に欠かせない要素である。

百目木茶屋は昭和40年に、百目木築は昭和37年に解体された。現在、最上川の岩盤には、築の跡と考えられる柱穴列が残されている。

百目木で最上川が大きく曲がる様子は現在も変わらないが、柏漣は崖を樹木がおおっており、水面に映った柏の葉のような景観は見ることができない。



柏漣の様子 (菊地写真館提供)



現在の百目木と「柏瀬」の様子



百目木の築跡



(3) 左沢の暮らしや文化と関わる要素

① 左沢八景

明治 35 年に「左沢八景」の漢詩が詠まれている。壬寅の年に左沢に来た石庵道人小林磊谿が、13 代目の巨海院住職であった祖勇尊師が左沢八景の題を撰んでいたのを見せられて漢詩を作ったと書かれる扁額が、左沢の白田家に残されている（『大江町史』）。

祖勇は越後の高田村生まれで、文化 4 年（1807）から巨海院住職となり、文政 9 年（1826）に亡くなった。石庵道人は大阪府の人で「壬寅の年」は明治 35 年であるとされ、祖勇の没年から、左沢八景の詩題が、江戸時代後期にすでにできていたと考えられている。

左沢八景の詩題は「桜瀬帰帆」「古城晴嵐」「鏡山秋月」「森宮夜雨」「巨海院晚鐘」「前田落雁」「川口夕照」「愛宕山暮雪」である。前述の白田家の扁額にこれらの詩が書かれている。

詩題とされた「森宮」「前田」「川口」「愛宕山」は、現在も左沢周辺の小字名にみることができる。「桜瀬」は楯山麓の最上川中洲南側で、「巨海院」は寺院の名前である。「古城」は、江戸時代後期の時点で「小漆川城跡」と「左沢楯山城跡」どちらを指したのか知ることができない。

『大江町史』では、この詩について、当時は最上川の舟も上り下りしており、前田は左沢駅もなく家もまばら、楯山の麓まで田圃で雁の群れも舞い下りたことであろうことから、「左沢八景の詩は当時の風景を描写したものである。しかも近江八景に倣って左沢の地になぞらえた情感は、当時の人々の文芸生活として読むべきであろう」としている。

桜瀬帰帆

妻山袖浦 急流中  
偏に喜ぶ 軽舟 百里の風  
寸々たる魚児 左沢に生じ  
桜花瀬を擁して 帰帆紅なり

古城晴嵐

城荒れ 罌碎け余濠少し  
老樹鬱蒼として 風怒号す  
嵐気常に籠りて 猶海に似たり  
晴天白日 雲濤を吐く

鏡山秋月

玉兔高く昇り 衆嶺横わる  
眸を窮むれば 処として 瑤瓊ならざるはなし  
鏡山と秋月と 雙ら清絶  
併せ作す 今宵 最水晶なるを

森宮夜雨

古廟森々として 天地清く  
千松万柏 帷風生ず  
西窓一夜 不眠の後  
誤つて聴く 蕭々 夜雨の声

巨海院晚鐘

歸禽 巨海院 回る所  
向晩 何れの辺よりか 詩興催す  
寂莫煙中 寺有るを知る  
鐘声 勃々 松より出でて来たる

前田落雁

北方に兀立す 石巖の巔  
成し写す 雲箋の九天に懸るを  
稲々 千町 秋玉の如し  
忽ち看る 雁侶の前田に落つるを

川口夕照

雲飛び 煙散り 奇景多し  
橋影 崖に懸りて 宛ら虹に似たり  
此の裏 誰か知る 川口の好きを  
一湾の夕照 波に対して 紅なり

愛宕山暮雪

朔風凜烈として 六花皚し  
時に送る暗香は 何れの処の梅ぞ  
白雪黄昏 尚清浄  
知りぬ 愛宕嶺より来る所を

（『大江町史』より）



現在の桜瀬



現在の森ノ宮



現在の川口（川口橋）



現在の愛宕山（愛宕神社）

## ② 浪花節前語り

近代、左沢では浪花節が愛好されたといわれ、左沢町名を詠み込んだ「浪花節前語り」が存在する。この前語りは後藤岩太郎が得意であり、菊地政五郎、小国久四郎、川勝松助の助言があつてまとまったという。後藤岩太郎は明治24年（1891）左沢の小漆川に生まれ、没年は昭和28年（1953）である。また、菊地政五郎と小国久四郎は左沢の人で、菊地政五郎は明治35年に左沢の菊地写真館の新館を建設している。小国久四郎は横町で商業を営んでいた。

「浪花節前語り」では、江戸時代の町組の名前で現在の小字名でもある「内町」「横町」「原（の）町」のほか、「代官屋敷」「八幡小路」など、近世の施設や社寺と関係ある建物や通りの呼称が語られている。「横町内町諸商人」、「酒は満腹原の町」など各町で営まれた生業や、「卸小売に眼がまわる」「のぼり下りの舟が行く」など商業や舟運で繁栄した町の様子が生き生きと詠み込まれている。

左沢町名唄込浪花節前語り  
 月雪花の眺めつきせぬ左沢  
 清き流れの最上川  
 朝日の昇る東町  
 新町下れば袋町  
 代官屋敷に小学校  
 前田の汽笛で眼をさまし  
 未来の大臣卵たち  
 学校さして急がるる  
 酒は満腹原の町  
 酔った機嫌で千鳥足  
 花は満開桜町  
 町で名高い三階楼  
 山と川とに包まれて  
 のぼり下りの舟が行く  
 横町内町諸商人  
 卸小売りに眼がまわる  
 貯めたお金で銀行ができる  
 聞いて驚く八幡小路  
 わしの生まれは小漆川で  
 声の悪いは親のゆずりと

御免町

## 第 2 節 原町の景観認知

### (1) 原町景観ワークショップ

大江町は平成 19 年の 10 月から 12 月にかけて「原町景観ワークショップ」を実施した。ワークショップの目的は、原町では舟運時代から受けつがれた文化とそこから生まれ引き継がれてきた景観が残されているとして、原町景観の重要性と、今後の景観保存及び、原町らしい良好な景観を形成するには何が必要かを考える機会とすることである。

平成 19 年 10 月 28 日に 1 回目『原町景観を観察しよう』、11 月 14 日に 2 回目『原町景観を創っていこう』、11 月 28 日に 3 回目『原町景観をアピールしよう』、12 月 12 日に 4 回目『原町景観を次代につなごう』と、それぞれテーマを設定して実施。3 班に分かれて現地を歩き魅力的な景観や問題となる景観を見つけ、それらをどのように活かすことができるか、次代へつなげることができるかといった検討が行われた。

ファシリテーターは町景観形成委員会専門員の志村直愛、参加者は地域住民や大江町在住者と東北芸術工科大学の学生、場所は町のふれあい会館と原町である。

1 回目 13 名（うち町内在住者 9 名）、2 回目 10 名（うち町内在住者 10 名）、3 回目 14 名（うち町内在住者 10 名）、4 回目 18 名（うち町内在住者 12 名）が参加した。

### (2) 原町における現代の景観認知

ワークショップでは、現地で「魅力的景観」と「問題な景観」を探し、その特徴を班ごとに考えた。発見された「魅力的景観」と「問題な景観」を、「自然の景観」「空間の景観」「生活の景観」「歴史の景観」に分けて班ごとの検討がおこなわれた。なお、自然の景観は「自然にある風景＝地形、緑、水など」、空間の景観は「人工的に造られた風景＝道、建物、空地、ストリートファニチュア」、生活の景観は「人の生活の風景＝人、行動、生活に関わるものなど」、歴史の景観は「歴史に関わる風景＝歴史的なもの、こと、歴史の変化を伝える痕跡など」とされている。

ワークショップで使用されたシートをもとに集計を行ったのが表 6-1 から 6-3 である。

集計では、一つの景観が「自然」「空間」「生活」「歴史」という類型複数に属するとした回答や、「魅力」と「問題」両方に位置づけられるとしたシートがあり、これらについては該当する各類型又は「魅力」「問題」両方に、それぞれ 1 件とカウントして集計を行った。表に示した割合はあくまで回答された「景観」の数を 100%として、各類型又は「魅力」「問題」の景観が占める割合を計算しているため、総数に対して各景観が占める割合の合計は必ずしも 100%とならず、各景観の数を足しても回答された景観の総数と一致するとは限らない。

表 6-1 は、発見された魅力的景観と問題な景観に占める景観類型毎の数をあらわしたものである。

原町周辺を歩きながら発見された地区内の「魅力的景観」としては、総じて「生活」と「歴史」の景観の比率が高く、「問題な景観」としては、「生活」と「空間」の景観が多い結果となった。「魅力的景観」と「問題な景観」の総数は、66 対 26 で魅力が多くを占め、地区で目にとまる景観要素には魅力と感じられる良好な景観が分布していることが読み取れる。

また、班ごとに参加者自身が見つけた「魅力的景観」と「問題な景観」について話し合いをおこなって、シートに記述している。これをまとめたのが表 6-2、6-3 である。

「魅力的景観」として各班が捉えた内容を見てみると、歴史を感じるものの記載が圧倒的に多く、原町が歴史的景観が引き立つ地域であることを裏付ける。特に、白壁や沿道の旧家の建築、蔵から格子戸、表札まで、建築とそれに関わる設えが幅広く挙げられている。また旧家の名称や歴史に関わる言葉など、ソフトな面での要素も挙げられているのが特徴である。また建物と背景、建物と樹木など、自然との相互関係を指摘する声もあり、景観要素が分類によらず、複合的な組み合わせにより真価を発揮する場合もあることを示している。一

表 6-1 発見された魅力的景観と問題な景観に占める景観類型毎の数との割合

		自然の景観	空間の景観	生活の景観	歴史の景観	合計
魅力的景観	紫グループ	8件	2件	15件	6件	18件
	赤グループ	3件	7件	5件	9件	16件
	緑グループ	3件	6件	10件	15件	32件
問題な景観	紫グループ	2件	1件	7件	0件	8件
	赤グループ	0件	5件	2件	3件	6件
	緑グループ	0件	6件	4件	4件	12件

表 6-2 班ごとに行われた魅力的景観の分析（『原町の魅力景観分析シート』より）

		紫グループ	赤グループ	緑グループ
数と割合		18件（75%）	16件（89%）	32件（84%）
具体的なもの		歴史を感じられるもの、白壁、手入れの行き届いている樹木	会津屋の建物、塀、沿道の歴史ある建物、蔵、山の眺望、自然の樹木、表札	
種類や特徴			沿道の建物の歴史的街並み、建物と樹木の関係、山の眺望	
類型別数		自然 8 / 空間 2 生活 15 / 歴史 6	自然 3 / 空間 7 生活 5 / 歴史 9	自然 3 / 空間 6 生活 10 / 歴史 15
類型傾向			歴史が最大	歴史
キーワード		格子戸、倉と松、板べい	歴史の背景が頭の中にあるから、明治の建物、古い、庭園とマッチ、旧家の名、商、陣屋跡、自然が間近に	
特徴			歴史に関わる言葉が多い、高い、表札、陣屋、昔の生活、自然との相互関係	
その他			歴史あるものは重要、ただ生活者にとっては大変	


表 6-3 班ごとに行われた問題な景観の分析（『原町の魅力景観分析シート』より）

		紫グループ	赤グループ	緑グループ
数と割合		8件（33%）	6件（33%）	12件（34%）
具体的なもの		電線、電柱、消火栓、ポスター、シャッター（車庫）、アクリルの波板へい	板塀がブロック塀に、移動により碑の由来が不明、看板ポスター、建物の色彩、参拝できないお堂、新しい駐車場	
種類や特徴		色、材質	新しいもの、新しい生活で変えられたもの、機能的なこと	
類型別数		自然 2 / 空間 1 生活 7 / 歴史 0	自然 0 / 空間 5 生活 2 / 歴史 3	自然 0 / 空間 6 生活 4 / 歴史 4
類型傾向		ほとんど生活景	自然にはない、空間に多い傾向	空間
キーワード		周辺にミスマッチ、歴史的なものの中に新しいもの	古いものに新しいものが加わり不調和となった、色彩が周辺とそぐわない	
特徴			調和していないもの、周辺とそぐわない色	
その他			歴史あるものは重要、ただ生活者にとっては大変	


第 I 部 保存調査編

方で高い評価を得ている歴史の景観ではあるが、その維持に生活者の苦勞があるといった指摘もある。

「問題な景観」として挙げられた内容は、電線、電柱、ブロック塀といった現代の市街地らしい景観要素が挙げられている他、気になる景観要素の種類として、ものの色や材質、新しいものや機能優先のものを指摘する声がある。また歴史的な景観の中での不調和、ミスマッチなど、魅力的景観との関係性も挙げられており、良好な景観を阻害するものとして相対的な評価がなされていることがわかる。また「問題な景観」には自然系

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観視察記録シート』		20071028
発見番号 18	タイトル 日本一公園	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感ずる理由：	道から山を見ると、公園が見えて良かった。	
将来こうあってほしい意見：		

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観視察記録シート』		20071028
発見番号 2	タイトル 戸袋 1.	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感ずる理由：	① 珍しい 木造の戸袋 ② 今と違って	
将来こうあってほしい意見：		

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観視察記録シート』		20071028
発見番号 6	タイトル 築地塀	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感ずる理由：	築地塀として珍らしく、門かぶす 松ふよい	
将来こうあってほしい意見：		

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観視察記録シート』		20071028
発見番号 23	タイトル 木公の木	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感ずる理由：	移りかえり時のコントラスト、	
将来こうあってほしい意見：	電柱の移設？ 電柱の移設が「木公」になりそう	

の要素はほとんど指摘されておらず、川や緑などの要素はこの地区では高い評価で受け入れられている。

図6-2は、発見した景観について班ごとに原町の地図に書き込んだ図を、1枚の地図にまとめた認知地図である。

最上川沿いで舟運で栄えた商家の町並みを伝える原町では、建築物や門塀、格子戸など歴史を伝える要素そのものが、この地の歴史の奥深さを認識する根拠になっている。多くの参加者が同様の意見を示しており、原


大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観観察記録シート』 20071028

発見番号 3	タイトル	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感じる理由：	屋根の型 古い店前が判る	
将来こうあってほしい意見：		

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観観察記録シート』 20071028

発見番号 17	タイトル	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感じる理由：	旧家の装束が判る	
将来こうあってほしい意見：		

大江町：原町景観ワークショップ01 『原町景観観察記録シート』 20071028

発見番号 31	タイトル お祭りつらやさん等。	魅力の景観 問題な景観
発見場所：		
状況解説：		
key word :		
自然・空間・生活・歴史		
魅力・問題を感じる理由：	地域のお祭りつらやさん等が 祖傳に置いとある。	
将来こうあってほしい意見：	ハロウィーン等にミニ情報など提供してほしい	



第 I 部 保存調査編

町が歴史あるまちとして認知されていることを裏付ける。一方、歴史的景観は、そこに存在する建築物だけでなく、周囲の樹木や背景としての山並みなどとの組み合わせで価値を発揮することも認知されており、その魅力の複合性が大切であり、それを阻害する要因への問題意識も高い傾向がある。

景観づくりへの住民意識としては、創り増やすべき景観要素として、古い建築自体の再現は難しいとしても、門や板塀、蔵の鍔飾りや戸袋などの建築物の一部分の復元、再建を求める声が多いだけでなく、旧家の屋根形状といった形態特性を守り伝えて行く必要を指摘する意見も出された。

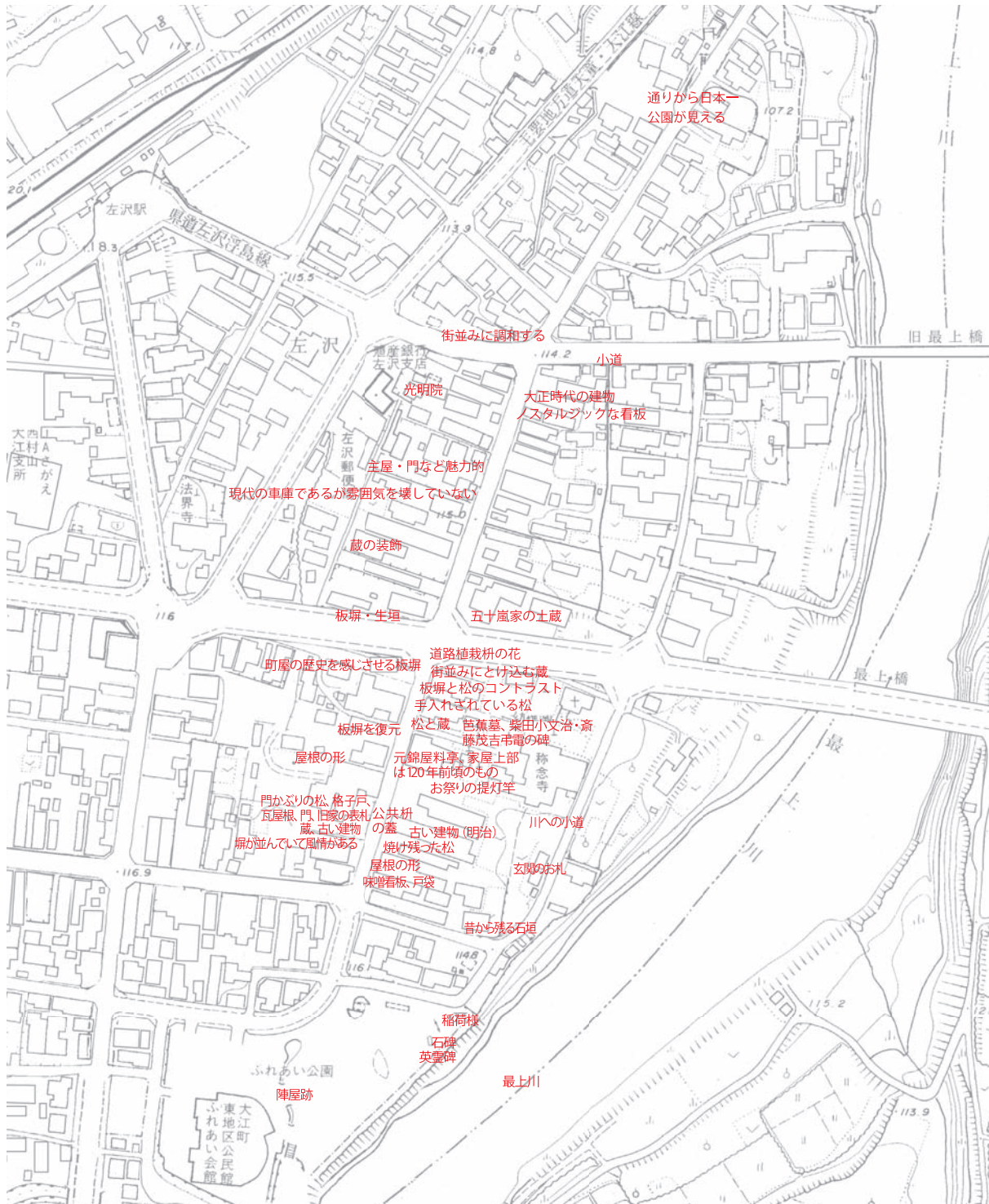


図6-2 原町で発見された景観の位置（ワークショップ成果のカードと地図を元に作成）

### 第 3 節 駅前風景認知

平成 20 年の 9 月から 10 月にかけて、「駅前風景ワークショップ」を実施した。平成 20 年 9 月 28 日の 1 回目は「駅前の将来を描いてみよう」、同日午後の 2 回目は「駅前風景を分析しよう」、10 月 8 日の 3 回目は「にぎわう駅前の風景を創っていこう」、10 月 22 日の 4 回目は「駅前風景を次代につなごう」というテーマを設定して、風景づくりに関する意見交換を行った。

1 回目は、小学生の参加者を募り、現在の駅前風景について子どもたちが望む姿を、各自に絵を描いてもらい表現してもらった。紙面に自由に描かれた 10 枚の絵には、道路沿いの歩道、空地に提案された公園、特徴のある駅前通りに立地する商店などが描かれ、それぞれ求める風景像についてのコメントを付した。

小学校 4 から 6 年生の参加者の描く理想の風景は、プランターで明るく彩られた歩道、駅前の広大な空地を公園化する、あるいはデパートを誘致するといったどちらかといえば機能的な要望が数多く寄せられた。

一方で、ユニークなデザインの店舗ファサードを大事にする、家の外壁色が沈んだ色だったので明るい色に、歩道に絵を描いてにぎやかにしたいといった駅前風景に関わる具体的な提案も見られた。総じて風景について理想的な機能付加を前提として、賑やかさや明るさを期待する声が多かった。また複数の看板の共架や、名産ラフランス型のイメージ看板の提案など積極的な提案も多かった。

一方で駅前通り沿道の風景づくりについては、ブロック塀の木造化、水路の開渠化、大正ロマンをテーマにした演出、空地の有効活用などが大人の声として挙げられた。同時に、沿道の空地の解消や夕方になるまで店を開けておくなど、駅前通りの賑わいと連続性の保持という景観上重要な指摘も挙げられている。

駅前を中心とした大江町全体の景観イメージとして、日本一公園や神通峡、最上川などからのイメージとして「水郷の町」を連想させる景観への期待。朝日連峰の入り口、山城の存在をアピール。地元以外の方が町に来た時に、町の良さを伝えられることなどが挙げられ、景観認知の傾向と、それを受け止める町民としての心がけを強く意識する意見が出された。

また、町外からの参加者の意見として、無用なセットバックが町並みの連続性を崩してしまっているという指摘や、空地の出現により見えてしまう建物側面デザインの無策、逆に空地により背後の樹木や楯山の全貌が視認できるようになるなど、功罪が入り交じっている状況指摘もあった。

地域の景観をリードする基幹的な要素である、市街地の中心に位置する駅と町とを結ぶ駅前通りに、おのずと住民の景観意識が集まる傾向が見られる。特に町の玄関口として、地域の特徴を活かした誇るべき景観としての重要性が期待されており、景観整備を推進すべき重要な拠点と考える必要性を再認識する結果となった。



# 第 4 節 内町・横町の景観認知

## (1) アンケートからみた景観認知

内町・横町における景観認知を知るために、「内町・横町景観アンケート」を実施した。対象は左沢 7 区の 42 世帯(平成 23 年 6 月 24 日現在)である。中央通り商店街とその周辺の誇るべき景観や悪い景観、自然、歴史、文化、生活を感じさせる景観、大江町らしい景観は何があるかについて、9つの設問に複数回答可で記述による回答をいただいた。アンケートの用紙は下の通りで、設問と回答の一覧は 157 頁から掲載した。

良い景観としては、「昭和 11 年の建物」「町屋造りの家」など街並みを構成する建物のほか、「各種商店がそろっている」「各々のお店が工夫をこらして商いをしている所」といった商店街としての特徴や、囃子屋台・青竹ちょうちんまつりといった文化や行事に関わることなど、無形の文化や行事、暮らしに関わる指摘がなされている。

「中央通りらしい景観」でも「各々のお店の工夫を凝らした商い」「店が古くても魅力ある商品の並んだ店」など商業活動に関わる内容がとりあげられており、建物から日々の商売を含めた商店街のあり方への評価がなされている。

また、逆に悪い景観としても「飲食店、食料品店などまだまだ必要な店がある」「商店街として考える時(歯の抜けた)店が多い」など、商店街としての機能や現状を指摘した意見があり、当地の景観は、商店街の商業と切り離して考えることができないものだということが分かる。

自然・歴史・文化・生活という特性ごとにどのような景観があるかという設問に対する解答としては、歴史と文化に囃子屋台やお雛様が重複してみられるほか、歴史としては有形の建物など、文化としては無形の芸能や行事が多い傾向にある。そして生活として「商店街としてそれぞれ頑張っている」「魚屋、雑貨店」「商店街全般」「お店の商い」「銀行が 3 つもあったこと」など、商業に関わる事柄があげられているほか、「ご近所どうしでの歩道でのよもやま話し」という、日常生活における人の姿が景観としてとらえられていることが興味深い。また設問最後の「大江町らしい景観」に対する回答としては、日本一公園(楯山公園)が 12 件と最も多くを占めるが、そのうち 9 人が日本一公園という表記による回答であった。

**内町・横町 景観アンケート**

大江町教育委員会 教育長 富野 隆行  
大江町文化的景観調査委員会委員 志村 直隆

このアンケートは「大江町文化的景観保護推進事業」において、内町・横町にお住まいの方が、地域の景観についてどのように感じているかを把握するために実施しております。

いただいたアンケートのデータを集計・分析して、大江町文化的景観保存推進報告書(調査報告書・保存計画書)など、事業の進捗で発行する書籍等に掲載するとともに、町の良好な景観づくりに活用させていただきます。

ご協力の際、よろしくお願ひ申し上げます。

※以下のアンケートでは「景観」という言葉を度々使っていますが、景観の定義は以下の通りです。

□景観＝風景、眺め、景色、目に見えるまちの風景すべてのこと。

まちなかでは、店舗や住宅、神社仏閣などの建物やまちなみ、道路、橋、軒など街路に置かれたもの、道沿いにあるもの、周辺にある緑や川などの自然、背景としてある山並みなどの眺め、さらにはこれらに囲まれて過ごす人々の暮らしがら、買物や散歩、お祭りや行事など生活全般の風景を含めた「まちの姿」全般を指します。

以下、複数回答歓迎です。いくつでも答えてください。また設問により回答が重複しても構いません。

Q1：中央通り商店街とその周辺地域で、よい景観、誇るべき景観と思うものは何ですか？

Q2：中央通り商店街とその周辺地域で、わるい景観、なくすべき景観と思うものは何ですか？

Q3：中央通り商店街とその周辺地域で「自然を感じさせる景観」といえば何がありますか？

Q4：同じく、「歴史を感じさせる景観」といえば何がありますか？

アンケートは裏面につづきます。裏面の設問にもご協力願ひりますようお願い申し上げます。

Q5：同じく、「文化を感じさせる景観」といえば何がありますか？

Q6：同じく、「生活を感じさせる景観」といえば何がありますか？

Q7：同じく、ずばり「中央通り商店街らしい景観」といえば何がありますか？

※外からお客様がいらして、「大江町らしい景観を 3 力所見たい」と言われたら、どこを案内されますか？  
(ただし、交通条件は考えないものとします。(例)松原の大江寺も OK)

Q8：中央通り商店街では？

1 ( )  
2 ( )  
3 ( )

Q9：大江町全体では？

1 ( )  
2 ( )  
3 ( )

..... 回答者さまの情報 .....

※「回答者さまの情報」は、アンケート結果の分析に使用いたします。目的外の使用や、結果公表の際、個人が特定できるような情報は公表いたしません。

お名前	性別	男	女
ご住所	ご年齢	満	歳 (大正 昭和 平成 年生まれ)
ご出身	①居住地と同じ	②大江町左沢 ( 区)	③大江町内 ( 区)
	④大江町外 ( 市 町 村)		
※ 現在地に住み始めた時期	①生まれたときから	② ( ) 年前から	
ご職業	①自営業 ( 小売業 製造業 農業 その他 ( ) )		
	②会社員	③その他 ( )	

【 アンケートについてのお問合わせ 】  
大江町教育文化課 (歴史文化係) 大江町大字本郷丁 373-1 (大江町中央公民館)  
TEL. 0237-62-3666 Mail shakai\_k@town.oe.yamagata.jp

こちらはアンケート裏面です。ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。  
なお、表面の設問にもご協力願ひりますようお願い申し上げます。

「内町・横町通り」景観認知アンケート調査 調査票

Q1 中央通り商店街とその周辺地域で、よい景観、誇るべき景観と思うものは何ですか？

- ・昭和 11 年（左沢大火）の建物が残っている
- ・昭和 12 年度に建てた建築物 店 住宅等
- ・昭和レトロのお店
- ・町屋造りの家・お蔵
- ・昔ながらの風景が素晴らしいと思う
- ・元しあわせ銀行の建物
- ・ひいらぎやさん十字路ななめ向かいにある公園
- ・子供や老人にやさしい道づくりとして完成した中央通り商店街。各家庭・店先に花鉢がたくさん見られるようになりました。
- ・各種商店がそろっている（町並）
- ・各々のお店が工夫を凝らして商いをしている所
- ・ポケットパークの使用
- ・ミニポケット公園の冬のイルミネーションとさつきの展示
- ・街灯
- ・はやし屋台巡幸
- ・青竹ちょうちん祭り
- ・囃子屋台・青竹提灯
- ・夏祭りの青竹ちょうちんをした時の風景はきれいだと思う
- ・原町の街並みと清野家
- ・町内の遊郭の名残を感じさせる佇まいと茂吉の歌碑
- ・フットパスからみた様々な橋
- ・東地区公民館のあたりから見る最上川風景
- ・最上川沿い
- ・日本一公園からの眺め
- ・森の宮からみた田園
- ・川口橋からみた楯山
- ・大山公園全体と、管理棟から見た 360°の景観最高
- ・大山公園のひめさゆり
- ・誇るべき景観はやはり日本一公園だけでしょう。その他を言えば原町通りの一部ですが限られていて二・三軒では観光客を満足させられるか？この場所なら入場料を出しても見てみたいというところがあるでしょうか。
- ・なし

Q2 中央通り商店街とその周辺地域で、わるい景観、なくすべき景観と思うものは何ですか？

- ・（きらやか銀行裏手）のお蔵は大火を逃れた立派なお蔵ですが、傷みが激しく補修することで安全と景観が保たれると感じております。
- ・元きらやか銀行裏通りの壁がくずれた蔵
- ・ふれあい会館周辺の植込みのさつき。
- ・ポケットパーク
- ・ポケットパークは街灯ふうの風情ある灯りが気に入ってます。電飾の際できるだけ風情を損なわないようにお願いしたいと思っております。
- ・看板いらない、のれん街にでもするか…
- ・空地（横町通り）
- ・飲食店、食料品店 etc まだまだ必要な店がある
- ・商店街として考える時（歯の抜けた）店が多い。
- ・道路と歩道の境界にポールがありますが、接触や追突事故があった非難の声が多い。私個人として、十字路付近に設置してはいかがと思います。
- ・車道と歩道の境のプロテクターが道路を狭くしている。冬期間は必要だろうが夏季は色別されているので必要とは思わない
- ・歩道と車道に立っているポールの数が多すぎる。あちらこちらで車をぶつけている様で買い物客も減ってきている。
- ・景観とは異なりますが、道路もきれいになりましたが、下水道してない所が 10 軒以上もあるので歩いている人から臭いねと言われます。
- ・最上橋の新旧が一緒に見られるといえばそれも良しですが、不便でも新しい橋は邪魔（景観的には）と言うと言過ぎかな？
- ・なし
- ・なし
- ・特になし

Q 3 中央通りとその周辺地域で「自然を感じさせる景観」といえば何がありますか？

- ・道路 10 箇所余りに樹木ボックスを設置したこと
- ・街路灯に花鉢を設置したこと
- ・各家の花の植栽やフラワーポット、側溝のせせらぎにも自然を感じます。ポットの木
- ・板塀が統一されている
- ・静かで人通りが少なく安らぎを感じる（?）
- ・街並みがそろっている
- ・最上川フットパス
- ・ふれあい会館からながめる最上川と月布川
- ・佐藤内科さん近隣の最上川の風景
- ・日本一公園からみた全景
- ・日本一公園
- ・郷社八幡神社の鎮守の森
- ・郷社山門の大杉と銀杏・榎木・桜などの巨木
- ・Q 1 と同じ（最上川沿い、大山公園のひめさゆり、日本一公園からの眺め）
- ・なし（5 人）

Q 4 同じく「歴史を感じさせる景観」といえば何がありますか？

- ・蔵の町・町屋造りが数点あります
- ・左沢川運を思う 建物が残っている・倉が多い（しあわせ銀行等も）
- ・裏通りからみられる蔵座敷
- ・安彦商店、上田屋、芳賀魚店等古い木造商店
- ・町屋造りをそのまま残されている林武一郎商店と内部に見える大きな桁と梁
- ・旧きらやか銀行
- ・山家先生の自宅
- ・囃子屋台、獅子踊り奴行列など
- ・お雛様・二日市（初市）
- ・旧正月やひな市があること
- ・原町清野家
- ・五区の会津屋さんの蔵造りでしょうか
- ・原町通りの一部の蔵、屋敷、神社、仏閣等

- ・原町通り
- ・称念寺の茂吉の碑文
- ・巖島神社（弁財天地区・山家家所有）と大小 13 の堤
- ・巨海院の山門
- ・無記載
- ・なし（3 人）

Q 5 同じく「文化を感じさせる景観」といえば何がありますか？

- ・交流館に飾られている囃子屋台
- ・はやし屋台
- ・囃子屋台をはじめとする大江町の祭
- ・女相撲甚句
- ・ひな祭り 歴史ある雛をかざりその家をめぐる
- ・最上川舟運で伝えられた京の文化（囃子屋台お雛様など）
- ・旧町名に名残をとどめる
- ・それぞれの家庭で何代もつづいた豪家の物 誇りと歴史があり、景観にも感じさせる
- ・青苧
- ・茂吉の歌碑
- ・山形銀行
- ・中央通りの大改修で成った前面道路と街路灯
- ・駅交流ステーション
- ・なし（3 人）
- ・無記載（3 人）

<p>Q 6 同様に「生活を感じさせる景観」と言えば何がありますか？</p>	<p>・中央通り公園が出来た事が商店街のおもてなしの心を表し心がなごむ</p>
<p>・スーパーマーケットやコンビニはありませんが、商店街としてそれぞれ頑張っている。</p>	<p>・なし（5人）</p>
<p>・魚や、雑貨店 etc…</p>	<p>・無記載</p>
<p>・商店、スーパー、いこいの広場、公民館等</p>	<p>県外からお客様がいらして、「大江町らしい景観を3カ所見たい」と言われたら、どこを案内されますか？（ただし、交通条件は考えないものとします）</p>
<p>・中央通り商店街全般</p>	<p>Q 8 中央通り商店街では？</p>
<p>・お店の商い</p>	<p>・ポケットパーク（2名）</p>
<p>・初市…各商店が初市に参加し自宅前で客とのふれあいをしていた（最近少ない）</p>	<p>・道づくり</p>
<p>・森永牛乳屋の早朝よりの荷卸しと配達風景</p>	<p>・板塀</p>
<p>・ご近所どうしでの歩道でのよもやま話し 会話</p>	<p>・古い街並み</p>
<p>・ビアガーデン</p>	<p>・まだ残っている町屋造り、上田家、高取家、高橋家、山家家等</p>
<p>・各戸それぞれのプランター等の花々と交差点西南に位置するポケットパーク</p>	<p>・林武一郎商店の町家造り</p>
<p>・左沢の中心であった事から銀行が3行もあった事、その一つが昭和12年に建設されたしあわせ銀行</p>	<p>・きらやか銀行</p>
<p>・地主であった山家宅等</p>	<p>・倉</p>
<p>・街道</p>	<p>・立派な蔵座敷</p>
<p>・左沢線</p>	<p>・各々のお店を覗く、時々縁台に腰を下ろし街並みを楽しむ</p>
<p>・なし（5人）</p>	<p>・お魚の美味しいカクサン魚屋</p>
<p>・無記載</p>	<p>・山家のだんご</p>
<p>Q 7 同様に、ずばり「中央通りらしい景観」と言えば何がありますか？</p>	<p>・たいやきのさくら</p>
<p>・旧しあわせ銀行家屋</p>	<p>・札の前</p>
<p>・道路が整備されて景観も一段とよくなったかと思う</p>	<p>・囃子屋台</p>
<p>・道路も整備され街並みとマッチングして来たように思われる</p>	<p>・はやし屋台</p>
<p>・街並み</p>	<p>・初市</p>
<p>・街路灯のある商店街</p>	<p>・青竹ちょうちんまつり</p>
<p>・各々のお店の工夫を凝らした商い</p>	<p>・屋敷を見学する所がない（外観だけでなく）</p>
<p>・店が古くても魅力ある商品のならんだ店</p>	<p>・残念ながらあえて商店街と言っても見せる商店が見つからない。できれば大江町の特産物（酒類、菓子類、野菜類、小物類等その商店街で、いつでも見られる店が少ない その他製造している商店とか）</p>
<p>（行列のある店が一軒でも欲しい）</p>	<p>・なし（4人）</p>
<p>・とにかくお店の前はきれいに掃除されている</p>	<p>・無記載</p>
<p>・各戸がそれぞれの前面道路をそれぞれが清掃を心掛けて保たれている清潔な歩道</p>	

Q9 大江町全体では？	・テルメのアユ祭り
・日本一公園（8人）	・原町通りと清野家など
・楯山公園展望台	・青竹ちょうちん祭り
・楯山公園から見る街並	・大山公園（4人）
・最上川の蛇行と眼鏡橋を一望できる楯山	・大山自然公園（2人）
・日本一公園と最上川	・柳川温泉（2人）
・最上川	・柳川温泉と近くの山並み
・百目木と最上川の流れ	・柳川温泉と神通峡
・最上川フットパス	・神通峡（3人）
・フットパス	・神通峡、古寺鉱泉
・灯ろう流し花火大会	・古寺（2人）
	・パワースポット

「内町・横町通り」景観認知アンケート結果 4

このアンケート結果から、内町、横町の景観に対する左沢住民の景観意識としては、昭和初期からの店舗、住宅、蔵などの建築及びそれらが連なる町並み景観が昔ながらのレトロな雰囲気伝えるイメージを強く抱きつつ、近年のポケットパークやイルミネーションなどの新たな取り組みをも誇るべきものとして認めていることが特徴的である。また、囃子屋台や提灯など、祭りに登場する季節的な景観を誇るべきものとして挙げる例もあり、地域の生活に根ざした伝統的行事が景観として確実に認識されていることを伺わせる。これらが沿道の町並み景観と一体として維持されることが期待されよう。

一方で、ポケットパークなど新しいものについての評価には厳しく捉える意見もあるが、存在そのものよりはそのデザインや見せ方の工夫の必要が感じられる。また安全のための道路設備、ストリートファニチュア等の設えに対する異論も多く、建造物、町並みと一体的な調和に配慮したデザインのあり方は課題といえよう。

景観の要素を4つの軸で捉え整理することで、それぞれの視点からの特徴を抽出すべく質問を設定した。

自然については、フラワーポットなど近景を捉える視点が多いが、鎮守の森やはるか日本一公園までの中、遠景の視座の意見も出ており、複合的な眺望景観のどの視座にも自然が常にあるこの土地の魅力を捉えている。

歴史は前述の余折、蔵、店といった建造物に、寺社というオーソドックスな歴史的遺構に加え、祭りの風景や、道そのものを挙げる回答もあり幅広い歴史遺構の存在に対する住民意識の高さが見られる。

生活は、リアルな生活要素としての商店や商売が挙げられているが、かつてあった銀行など往時の賑わいを懐かしむ声も聞かれるのが特徴である。

文化は難しい視点ではあるものの、文化的景観であることを踏まえて設定したが、当然出て来るであろう祭りや行事に加え、青苧や町の旧町名といった生活文化の視点や、真新しい街灯や駅施設などを挙げる先進的な目もあり興味深い。いずれにせよ、生活や産業、歴史的なものと新しいものといった異なるエレメントを総合的に捉える目線が存在することは極めて心強い。

「県外からの客を案内する場所」という設問は、大江町らしい景観という視点を問う発想を変えた質問であるが、こうした中に、景観に対する潜在的な認知性が隠れているように思う。

やはり、蔵や店を並べる歴史ある町並みが多数を占め、祭りの設えがこれに続く、少なくとも〇〇家や〇〇屋、〇〇銀行といった具体的な名称が表れており、生活と切り離されていないこれら景観要素の身近さを感じさせる結果となっている。また「見せるものはない」という回答も多いが、地元ならではの控えめな謙遜の気持ちを差し引いても、ある意味せつかくの魅力的な景観要素の存在への気づきや、価値の提示など、地域の景

観に誇りを持っていただく施策の必要性があぶり出された結果ともいえるであろう。

一方で「中央通りらしい景観」という視点では、それぞれの町並みに加え、きれいに掃除された道路、商品の並び、工夫、おもてなしの心など、生活行為自体を評価する意見が多く、景観づくりの取り組みに発展できる住民意識の高さが評価され、今後の選定、景観形成の取り組みへの積極的な町民参加への気概を示すものとして大いに期待できるといえよう。

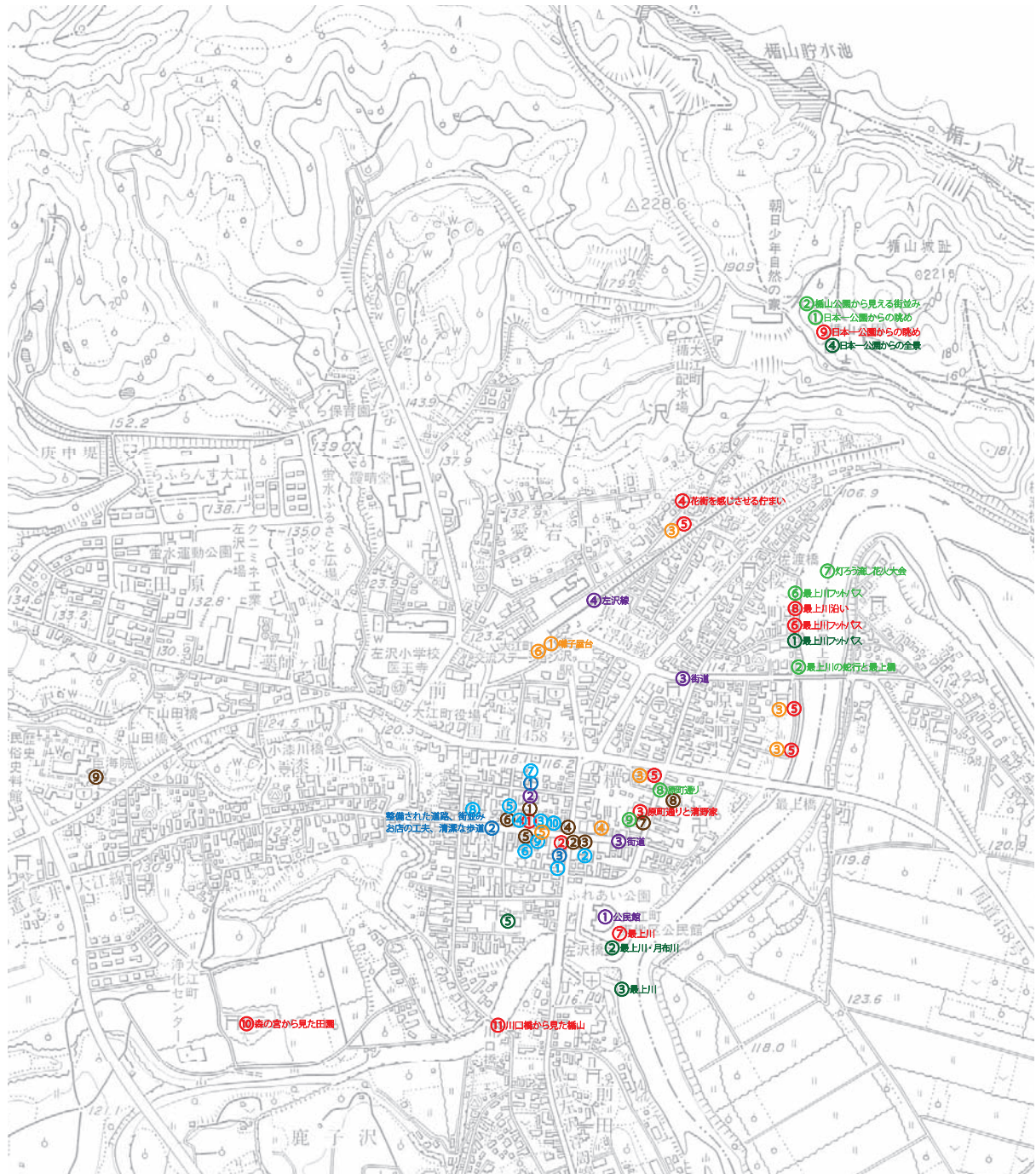


図 6-3 内町・横町で認知された景観（アンケート調査結果より）

## (2) 聞き取りからみた景観認知

アンケート調査後、平成 23 年 7 月 14 日、大江町東地区公民館（町民ふれあい会館）において、内町・横町にお住まいの 6 名の方に、内町・横町の景観に関わる記憶や印象を聞きとる調査を行なった。調査ではアンケート結果について簡単に報告を行なった後、当該範囲の地図を広げ、主に 60～70 歳代以上の方と、50 歳代以下の方の 2 つのグループに分かれて、地図に付箋を貼りながら、町の景観に関わる記憶をうかがった。

60～70 歳代以上のグループでは、町中に井戸があった記憶や、商売の種類と店舗名に加えて、市や大店の記憶など、近代、繁栄した町のなかで営んだ暮らしを通じた記憶が提示され、暮らしの記憶がまとめられた地図ができた。

また、50 歳代以下のグループでは、かつて「店がたくさんあった」「なくなった店がある」ということから、中央通り付近にあった店や屋号、商売の種類についての記憶が次々提示され、地図上でも「どの通りに何の店があったか」という記憶がまとめられた地図ができた。

具体的な内容をみていくと、沿道の店については屋号やその由来まで、元旅館、ミルクホール、醸造元など店じまい前の商売、業種についての情報、交番や銭湯など往時の賑わいを伝える公共的施設の記憶、堰や井戸、屋敷稲荷など建物の背後に隠れた生活の姿に関する情報、大火時の情報やその後のまちづくりの歴史など長期に渡る景観の変化について客観的な情報が多く抽出された。

60～70 歳代以上のグループでは、この土地にお住まいになられた期間が長いことから過去のまちの姿に対する直接的な記憶が鮮明であることに加え、先代から語り継がれた史実を確実に記憶されており、活きた情報としての景観要素の解釈を数多く持たれている。また同世代の町民どうしの検証の時間に比例して、そうした生の景観認識が溢れるように出て来ることは大きな収穫と感じた。

一方、50 歳代以下のグループでは、「せとものや」「風呂屋」「ゲタやさん」など、その店舗で営まれた商工業など職種から、店舗の名前や屋号、店の名称を想起して場所の記憶につなげて地図に書き込むという作業が多かった。出来上がった地図でも、かつて当地でみられた景観として、そこにあった店舗建築や店舗の名前ではなく、職種や商売の種類をそのまま答えられた例も多い。

そして、50 歳代以下のグループでは、外から左沢に嫁いだ（又は婿に入った）方が多いが、回答いただいた記憶の時代をみると、回答者が当地に居住した年代より遡ると考えられるものもみられる。回答者自身が「古いことは分からない」と言いながらも、中央通りに住む方の中に、当地で営まれた商工業の記憶が受けつがれており、その内容から、住宅街や集落とは異なった商業地としての記憶が当地に刻まれていることがうかがえる。言い換えれば、当地では、景観の中に商工業など各家々の生業が存在し、その生業こそが当地の景観として記憶されていることが分かる結果がみられた。



聞き取り調査の様子



聞き取り調査 成果品

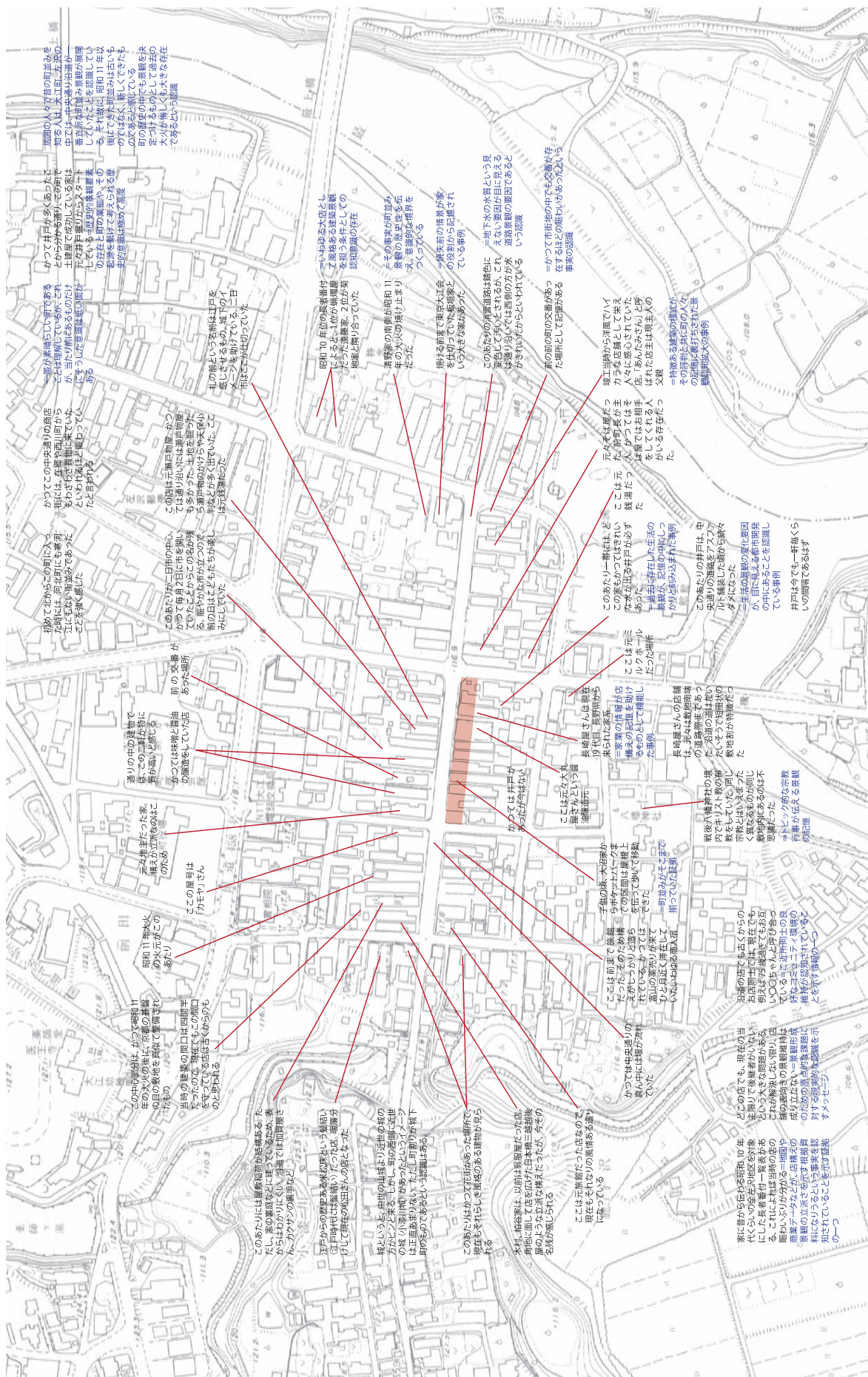


図6-4 内町・横町の景観認知調査1 (60～70歳台以上のグループ成果品より)





図 6-5 内町・横町の景観認知調査 2 (50 歳台以下のグループ成果品より)

### (3) 内町・横町における現代の景観認知

地域住民や周辺部に在住する町民からの声として、筆記式のアンケート及び、現場での意見交換型ワークショップと、異なる形式での景観認知の試みを通じてみると、

- 1：基本的に、中央通りに面して建ち並ぶ店や蔵などの歴史ある建造物群を中心とした商店街の町並み景観がこの地区の景観の主軸となっている。
- 2：これらは昭和 11 年の大火を期に更新されたものと背後に残る大火以前の古いものとに分けられるが、いずれもが生活生業の歴史を伝えるものとして、対外的にアピールできる景観要素としても高く評価されている。
- 3：常設ではない祭りの設えや行事など、生活文化として歴史を伝える景観への意識も高い。また井戸や堰など町並みに付随するストリートファニチュアなどの景観要素や、新しいポケットパークや歩道なども景観要素として評価する目が届いており、質の高いデザインに対する意識も強い。
- 4：歴史の変化は屋号や商店名、業種などの変遷、町並みを形成する建造物の姿や規模、周辺の設えなどの景観要素と複合的に意識され、それらが伝承された、あるいは直接の記憶として現在のところ残されており、今ある要素を補填する価値としての可能性を持っている。
- 5：また各老舗や、地主の住宅など地域が誇るべき歴史的建造物には、その繁栄の歴史も含め、西村山地域全体レベルでも特に賑わった地区の証として往時の姿を知る方や先代からの伝承を知る方の中では、特に強い誇り意識を感じさせる景観要素として欠かせないものとなっている。
- 6：一方でこれらの景観要素については、世代によっては大火以後を新しい時代と読む見方もあることから過小評価される傾向が否めなかったり、終戦前後の最盛期の賑わいと比較して衰退したものと意識される見方も否定できない側面はある。

このように、現在目に見えるまちの景観は、まさしく今の一時代に存在する現象としての景観像そのものであり、住民の世代によっては、建築、地割り、設えといった物理的なもののみならず、それらの成立、持続の背景となった商業、生活などの過去の発展、繁栄の姿を知る、あるいは伝承された価値観により、景観要素への評価が多様であることも理解できる。すなわち、現在ある歴史や文化を伝えるものは、この土地のアイデンティティーとして最低限重要である景観要素であることを基本に、過去からの記憶、語り継がれた史実などを重ね合わせ、これらの景観要素の見えない価値を加えて評価しながら維持、伝承していくことが求められる。



かつての左沢の街並み（昭和 15 年以降、昭和前期 菊地写真館提供）



かつての左沢の街並み（昭和前期 菊地写真館提供）

## 第 5 節 校歌と校章

昭和 28 年に制定された大江町立左沢小学校の校歌には、最上川に係るフレーズが冒頭に出てくる。左沢小学校は昭和 61 年、校舎の老朽化に伴い、現在の大江町東地区公民館（ふれあい会館）の場所から、左沢字薬師堂地内の現在地に移った。かつて学校があった場所は最上川と月布川の合流点北側で、南に月布川、東に最上川が流れている。

校歌が制定された頃は、校舎東側に流れる最上川が望めるとともに、校歌歌詞に「岸边に高く 建つ母校」とあるように、最上川からは崖の上に建つ校舎が眺められたことであろう。校歌の歌詞は以下のとおりである。

### 校 歌

作 詞 稲 葉 武

作 曲 松 田 光 郎

- 一、 東開けて眺めよい 古い歴史の水郷を  
流れて止まぬ 最上川  
岸边に高く 建つ母校  
ああ 左沢の小学校
  
- 二、 きれいな学苑に 校風かおり  
みんな仲よく花と咲く  
ああ 左沢の小学生 心ほがらかに健やかに  
今日も楽しく 励もうよ
  
- 三、 平和の光 さすところ  
希望は胸に あふれくる  
ああ 左沢の小学生 昔をしのび日に新た  
今日も元気で 学ぼうよ

また、左沢の西に学区が広がる大江町立本郷東小学校の校章には、3 枚の青苧がデザインされており、学校によると校章の由来が以下のように説明されている。

#### 校章の由来

江戸時代、月布川流域（本郷地区）は物産の第一として良質強韌な苧麻（アオソ）が栽培された。三枚のアオソの葉の中心に本校の文字を配した。

たくましく、知・徳・体の調和のある児童の発達を学校、家庭、地域社会の和をもって育てようとの意をこめた構図である。

青苧はかつて遠隔地に移出され、大江町域の農村集落の暮らしを支えた商品作物である。また、生産地においても丈夫な糸や糸を剥いだ後の茎までが活用され、自給用には養蚕が主力の産業となった後まで生産されていた。暮らしのなかで身近に存在した植物ということができる。

このように、最上川や青苧など、現在の景観が形成されるにあたって重要な役割を果たした要素を当地の小学校の校歌や校章にみることができ、今の暮らしのなかで語り継がれていることをうかがうことができる。

## 第 6 節 左沢楯山城と「日本一公園」

### (1) 町名の由来

大江町は昭和 34 年（1959）に、漆川村と左沢町が合併して誕生した。『大江町史』では、「大江町の町名は、最上川の雄大さから由来している。特に楯山城跡に登って最上川をながめた感じは素晴らしい」と、町名の由来を紹介している。大江町の命名者は、合併当時の山形県知事安孫子藤吉である。町名については、以下のよう  
な説明がなされている。

「 漆川 合併新名  
左沢  
大江町

百川 衆沢 尽く一大江に帰するの意を取る。

猶、南朝の忠臣大江氏の此地方に領主たりし因縁も連想されるが、必ずしも之を主とせず、むしろ、最上川が此地に至って一大屈曲をなし、始めて大江の景観を呈し、佳気葱々として悠久に盛なるを見るべし。以て町民の理想を標示するに足る。」

併せて参考として明代（1368～1664）中国の高啓（1336～1374）の「登金陵雨花台望大江」という詩が示された。「登金陵雨花台望大江」の詩と書き下しは以下の通りである。

<p>英雄乘時務割拠 幾度戦血流寒潮 我今幸逢聖人起南国 禍乱初平事休息 従今四海永為家 不用長江限南北</p>	<p>（中略）</p>	<p>秦皇空此瘞黄金 佳気葱葱至今王 形勝争誇天下壯 江山相雄不相讓 欲破巨浪乘長風 鐘山如竜独西上 山勢尽与江流東 大江来従万山中</p>	<p>登金陵雨花台望大江 高啓</p>	<p>大江は万山の中より来る。 山勢尽く江流と東す。 鐘山は竜の如く独り西上し、 巨浪を破つて長風に乗せんと欲す。 江山相雄にして相譲らず。 形勝争い誇る天下の壯。 秦皇空しく此に黄金を瘞む。 佳気葱葱今に至るまで王なり。</p>
<p>英雄時に乗じて割拠を務む。 幾度か戦血寒潮に流る。 我今幸に聖人の南国に起るに逢う。 禍乱初めて平ぎて休息を事とす。 今より四海永く家と為る。 用いず長江の南北を限るを。</p>	<p>（中略）</p>			

（『大江町史』より）

この詩と町の景観の関係について「大江町の楯山からのながめは、南京の雨花台から揚子江をながめた感じに一抹相通ずるものがある」として、「揚子江に比較される最上川、鐘山に比較される朝日岳、共に江山の雄」に当たり、「『江山相雄にして相譲らず景勝争い誇る天下の壯』とはまさに大江町の楯山からのながめではないか。」と説明されている（『大江町史』）。

## (2) 「日本一公園」からの眺望

町名の由来となった「楯山からのながめ」は「楯山公園」、通称「日本一公園」から望むことができる。楯山境内に位置する公園は、国指定史跡左沢楯山城跡の一部である。

日本一公園からは五百川峡谷を流れ下った最上川が、楯山の麓で大きく流路を変える、特徴ある河川形態を望むことができる。

「日本一公園」と最上川川面の比高差は約 90～100 m ある。公園南側には急斜面が形成され、南から北へ楯山に向かって流れる最上川がその麓で大きくカーブを描き、南東方向へと流れを大きく変えて中洲を形成し村山盆地へ注ぎ込む。

北流する最上川の西側からは月布川が合流し、これらの段丘上に左沢の市街地が形成されている。月布川は西方の朝日山地から流れ出て、段丘を形成しながら最上川に注ぎ込む。楯山からは西方の遠景に朝日山地の連なる様子が望まれ、朝日山地から月布川の両側に延びる尾根の連なりと、それらに挟まれるようにして月布川沿いに形成された段丘に集落が広がる様子を一望することができる。

左沢の楯山周辺は、鮮新世の堆積盆の周縁部にあたる。楯山とその周辺の地層の多くは泥岩・砂岩・凝灰岩などからなっていて、楯山付近では左沢累層（稲沢山砂岩部層、左沢挾炭部層）をみることができる。最上川が大きく湾曲する形態は丘陵部が隆起するような地盤運動があり、最上川が左沢層の断層を右折して東に流れることで形成されたものである（第 1 章第 3 節）。また、楯山の南斜面は最上川の攻撃面にあたり、急崖が形成されているが、これを利用するように中世「左沢楯山城」が築かれたことが知られている（第 2 章第 2 節）。

このような眺望が望められる「日本一公園」の由来については、昭和 7～8 年（1932～33）に行われた楯山の天神越改修工事において、工事委員であった左沢の庄司甚吉が、山頂からの景色のすばらしさを驚嘆し「ここからの眺望はすごい、日本一の景色だ」と叫んだ。その後、町から現場に向かう労務者が「今日も日本一公園に行こうぜ。」と挨拶を交わすようになったことからだと言われている（『楯山公園あれこれ』）。

現在、楯山公園からの眺望は、平成 10 年「最上川ビューポイント」の一つに選ばれている。最上川ビューポイントとは、山形県が最上川の良い眺めを得られる地点を公募し、応募された 258 件 129 ポイントの中から、最上川ビューポイント選定委員会（委員長：横山昭男山形大学名誉教授）により選定された 11 景を指す。

平成 20 年に実施された第 1 回大江町景観グランプリでは、グランプリを受賞している。同グランプリは大江町が主催して公募により「次代につなげる価値のある景観資源」を募ったものである。



楯山の麓で最上川が流れの向きを変える様子

### (3) 城跡から「日本一公園」へ

楯山付近には中世山城があり、その存在は発掘調査で確認されている。近世の文献では、城に「巨海院」やその麓に「実相院」があったこと、廃城となった後の荒れ果てた様子の記述などをみることができる。近世の絵図面 2 葉では、楯山付近には山が描かれている。建築物等は愛宕山の山頂に社殿と思われる堂宇と「愛宕山」の文字を確認することができる。

楯山の利用については、松山藩の記録で、松山の役人が漆の植え付けに適した場所とみなされたことと杉を 2 千本植え付けようとしたことをよみとることができる。

明治 5 年の記録では、楯山部分についてはかつて城があり、現在は畑として利用されていることが記されるほか、愛宕山に秋葉神社があり、山水の眺望がよく登山するものも多いこと、麓の不動堂（大瀧山不動尊）に参詣するものが少なくなかったことが記されている。楯山地内については、明治 21 年の字限図でも、用材山として公有地が広がるほか、私有地の畑を確認することができる。明治 41 年には左沢町が楯山地内を売却した記録があり、地籍図等からも、近代に楯山の払い下げが行なわれたことを知ることができる。

大正 7 年には楯山公園に古峰神社の碑が建てられた。また、大正期には愛宕山や楯山で虚空蔵様のお祭り「高い山」が賑やかに行われていたという。愛宕山では、戦前まで旧暦 6 月 20 日に花相撲が行われており、近郷近在の力自慢も出場し、多くの人が見物に来るほどの左沢町の年中行事であった。土俵を設けた愛宕山の中腹には、暑さをしのぐ松林があったことがわかる。

なお、明治～大正期の記録では「日本一」の記述をみることができず、また、当時楯山付近を遊び場にしていた人の記憶でも、日本一公園とは呼ばれていなかったという。近代から近世の記録をみると、眺望地としては愛宕山付近の方が楯山より古かったことを推察できる。

楯山では、昭和 7 年から 8 年（あるいは 9 年）にかけて道路の切り通し工事が行なわれている。現在伝わるところによると、このときここからの眺めを日本一と称えた人がいて、それが日本一公園の由来とされている。昭和 16 年に行なわれた左沢楯山城の調査記録をみると、「愛宕山・日本一公園」の記述が確認され、この頃には眺望地点として認識されていたことをうかがうことができる。なお、楯山では戦時色の強い時期には軍事訓練や戦争ごっこなども行われ、太平洋戦争の頃には日本一公園の裏に学校の畑があり、児童が畑の作業を行っている。

昭和 30 年代の左沢町勢要覧では、「全町を一望に見下ろす本町随一の眺望の地」として日本一公園が紹介されている。桜や赤松があり、春の花や秋の紅葉、「高い山」の賑わいがあった。また、日本一公園は手ごろな散策地として町民に親しまれ、最上川舟唄碑の建立や地元住民による桜の植栽、清掃活動などが行われた。昭和 41 年には、大規模な公園整備が予定されるなど、日本一公園は観光地として注目されていた。しかしながら、少年自然の家の誘致と重なり、公園として整備を予定していた土地に山形県朝日少年自然の家が建ち、公園整備は計画倒れに終わった。

それ以降の楯山は、最上川や街並みを見下ろせる「最上川ビューポイント」に選ばれるなど、景勝地として認知されるようになり、桜の植栽やトイレの設置など、少しずつではあるが観光地としての環境づくりが行われてきた。

最近では、左沢楯山城跡の史跡指定に先立ち、全国山城サミットが開催され、多くの参加者が楯山を見学している。史跡指定後には山城に興味を持つ方々などが訪れ、景勝地としてだけでなく、中世山城を体感し、地域の歴史を学習することを目的に訪れる人も増えてきている。

表 6-4 楯山付近に関わる記述 1

時代	楯山城跡の記述	出典	記者	備考
左沢楯山城が機能した時代～廃城の頃	(左沢城主の左沢政周が長谷谷の戦で死んだ後)、日野将監光綱が左沢主(中略)義光討之、光綱防戦之、城中糧尽兵散独不得守、奔柵外自殺、此古墳老樹今尚存矣、土民呼曰御壇松、其西北陵阜外二百歩許其忠臣某自殺、是亦存古墳及老松、今失其姓名、此人好横笛、土人又呼笛吹壇(中略)最上家が改易になった後、家士亦分離矣、於茲城郭毀屏倒蓬蒿々々、四民不利産業新換地、今之左沢者其換改之、(中略)左沢元時は)彈正之時亦摸之社城中崇敬之、及命數絶城郭崩四民換地、以其無便今市廛官務及氏子新卜地于丘下之南市廛之北、再造宮瑞籬尊信之以為一郷之鎮護今之八幡宮是也	「左沢 村山郡寒河江庄」『宗古録』(渡辺正見氏の写本による、『大江町史資料第十二号』)	羽柴宗古	宗古は松山藩医である羽柴玄倫(正徳3年(1713)～安永9年(1780))のことである(『大江町史資料』第十二号)、記述がなされたのは18世紀。
左沢楯山城が機能した時代～廃城の頃	親広六世之孫彈正之時始築左沢、深壑塚高鹿塞、城中建一院号鉄閉山巨海院(中略)大樹公嚴命元年中被遷于江州、其徒又分離、於此雄凶崩剝黎庶移地僧侶又逃走、故寛永年中再命賜左沢地于從五位下酒井右近大夫源直次公	「鉄閉山巨海院」『宗古録』(渡辺正見氏の写本による、『大江町史資料第十二号』)	羽柴宗古	
左沢楯山城が機能した時代	実相院者旧在郷北古城中日野将監光綱之所造宮也	「北野天満宮 愛宕大権現 別当高雄山実相院 神護寺養命坊」『宗古録』(渡辺正見氏の写本による、『大江町史資料第十二号』)	羽柴宗古	
左沢楯山城が機能した時代～廃城の頃	(大江広元の子親広の)裔之時居左沢之城、城者在丘陵其麓四民卜居(中略)衆生欣喜立一字置上人、六齋日或農隙群衆称念仏、故号山曰大沢山、将令上人恩沢伝之永久、及城毀民移寺主亦新替地再管称念寺、改号曰法泉山、其地臨最上川也	「法泉山称念寺仏土院」『宗古録』(渡辺正見氏の写本による、『大江町史資料第十二号』)	羽柴宗古	
左沢楯山城が機能した時代～廃城の頃	乱補 宗古云(中略)左沢城主正周が討ち死にした後、最上義光の臣日野将監光綱を左沢の城代とす、(中略)日野氏の墳墓なり地老樹(今)尚有、土人御壇の松といふ、其乾の方陵阜の外二百歩許に其忠臣某自殺之所也、又古墳及老松を存す、其姓名を失ふ、此人横笛を好んで吹けり地土人呼んで笛吹壇と云ふ、最上家改易の時家士離散す、落城に因て郭毀毀ち屏倒れ蓬蒿莽々となれり、此時四民産業に不利故に新に居住の地を求めたりと、左沢は其地也、又寛永年中酒井直次住居の地を古城の南西小漆川の岸に定る(後略)。	「一左沢館」『乱補 出羽国風土略記』十之下(『大江町史資料』第十二号)	山形両所宮社人里見光当、平田一元	出羽国風土略記を補うため里見光当が筆を起し、弟子の平田一元が寛政4年に公にしたもの(『大江町史資料』第十二号)記述がなされたのは寛政4年(1792)。
左沢楯山城が機能した時代～廃城の頃	一 左沢城主 慶長陣二落城、古城主相知不申候、一伝二(以下城主の名前、後略)	『最上記』下(阿部伝五郎家所蔵本による、『大江町史資料』第十二号)		これは阿部伝五郎家所蔵本によるものである(『大江町史資料』第十二号)文政12年(1829)10月写之。
天保～弘化期頃	(楯山と裏山には山と山を越える道が描かれている、愛宕山には建物と「愛宕山」の文字がみられる)	「左沢絵図面」	早坂直右衛門(松山藩主の家臣)	
天保9年	(木が生えた山と山を越える道、最上川直上(「千畳敷」下周辺)は崖のような絵が描かれている)	「左沢御領内御絵図」	松田園田、村上虎松(松山藩の絵図方)	
文政9年	(文政9年1月、松嶺藩の役人齋藤弥右エ門が左沢に桑漆の植え付けを命じられた、同年5月齋藤は次のような願書を提出した)此度私儀左沢表へ漆桑御植付御場所為見分罷登申候然処楯山ノ内へ相応ノ御場所有之候付、杉二千本寸志植付差上申度奉存候、不苦儀御座候ハ植付被仰付被下置度此段奉願候以上	「松嶺資料六巻」『大江町史資料』第3号	松嶺藩役人	
明治5年	楯山の城跡は本村の東北に当たりて、裏山の東端にあり。築城の年代詳かならずと雖も、往時大江の元時の築く所にして寛永年中破却せりと云う。今は畑地となつて、本丸二の丸など只其の痕跡を存するのみ。(中略)愛宕山は本村の北にあり。裏山山脈の一嶺、南に秀でたる所なり。山上平坦にして秋葉神社の祠あり。山水の眺望宜しきを以て登山するもの多し。古楯山の城存在せし時、其の大手口なりしと云う。其の東麓に不動堂あり。境内花また多く、花時杖を引くもの少なからず。	「左沢村史」(「郷土の人達が見た郷土と楯山城」)『平成7年度左沢楯山城跡関連調査委員会 報告書』	大泉溜	原本の所在不明、報告書内に柏倉登氏が「左沢村史」を抜粋して写した「郷土の人達が見た郷土と楯山城」より引用した
明治21年	(「用材山官林」と一部私有地で地目「畑」の土地がみられる)	「左沢村ノ内 拾八番字楯山全図」	松田園右衛門、村上義七、庄司三郎兵衛、佐藤惣次郎	明治21年製図後に払い下げが定められた様子がかがえる。
明治40年代	いつの頃植えたのか、楯山の学校林の落葉松は、大人の背丈位にのびていました。(中略)下刈に出かけ)笹葉やつる草などを刈りとりました。	「遠足と学校林」『左沢小学校百年のあゆみ』	田宮くによ(明治45年卒)	
明治41年	明治41年の左沢町議会議事録 左沢町有字楯山不要山林売却ノ件	「左沢町事務報告書」『大江町史資料第十五号』	左沢町	
大正中期	遊びでは、日曜のたびに日本一あたりの山で演習ごっこで日を暮らしたものだ。	「座談会 大正中期の思い出を語る」『左沢小学校百年のあゆみ』	大正7年高等科卒業組	
大正中期～昭和前期	楯山の古峰神社は楯山公園に祭つてある。自然石の台座上、2.5m程の碑が大正7年3月に、阿部喜次郎によって建てられたもので、現在も同家で別当し、管理している。祭りは高い山の日(旧暦4月17日、現在5月17日)に旗を立て、御神酒・赤飯・その他の供物を供えて、火難除け、家内安全を祈つて祭典を行っている。高い山の日のこと、開運を祈つて山に登る人たちの参詣が多く、なかなか賑やかな祭典である。	「古峰神社」『大江町の祭り』	大江町老人クラブ連合会	
大正12年	【左沢駅】の所在地「左沢町」は最上川の沿岸にある西村山郡内の一名邑 同町から西南十丁を隔てた最上川の流域には「柏静」の勝地がある。其風光の佳絶同流域中の優・称せられておる。因みに「最上川」は其流域六十里、本邦三急流の一が数へられ、又た羽前国第一の巨川である。又た左沢町の語源は往昔大江親広寒河江城にまつた際、山上から西方の溪谷を指してアチラの沢と称へたのに基くと云ひ、或は最上川を中心として、アチラの沢、コチラの沢の地が同町の名を残すに至つたのであるとも伝ふておる。	「左沢線」『新撰鉄道旅行案内』	安治博道 藤井友次郎 野田文六	
昭和3年	左沢は大江広元七世の孫茂正の時大いに城いたといふがその後最上氏に領せられ(後略)	『山形県人国記』	藤田 眞	
昭和前期	左沢7区の報告書に「最上川の岸に桜を植へ、又新道にも楯山一円の地にも多くの桜を植へた」とあり、又、「この川の利用をはかつて川開き(川供養)が始まった」とあるが、識者の間では、如何にして左沢に人を寄せるか、左沢の自然をどう活かしてゆくかが常に考えられていたのである。	「灯籠流し」『大江町の年中行事』	大江町老人クラブ連合会	



第 I 部 保存調査編

表 6-5 桶山付近に関する記述 2

時代	桶山城跡の記述	出典	記者者	備考
～昭和前期	旧暦 6 月 20 日は、愛宕山の祭典である。「山の中腹で行われる草相撲を見物する。この日には近郷近在の相撲自慢の者が集まった。」(4 区)「山の中腹に土俵が作られ、周囲の土堤に見物人が一ぱいになって相撲を見たものだった。西山・本道寺・海味・本郷方面から強い相撲が出て来て、すばらしく賑わった。(5 区)「午後半日休み、愛宕山の奉納相撲有り。多数の人が見物に行った。」(伏熊)「村より見物にゆく。出場もする。近郷近在の『我こそは』と思うものが参加した。」(上小漆川)と、愛宕山の花相撲は全町民から関心をよせられた大きな左沢町の年中行事であった。(中略) 愛宕山の花相撲の始まりはいつの頃かは判然としませんが、戦前迄は、恒例によって旧暦 6 月 20 日に開かれ、左沢町の大きな行事の一つとして、町を賑わせたものである。(中略) 相撲場は愛宕山(左沢北方の愛宕山の松林、実相院所有山林)の中腹で南向の斜面、観覧席は土俵を中心に半円形のひな段になっていて、真夏の暑さよけには松林の日陰もあり、観覧には絶好の場所である。	「愛宕山の花相撲」『大江町の年中行事』	大江町老人クラブ連合会	
大正 10 年代	その頃、日本一と言う公園はなかった。桶山と言っていたもので、春の山遊びはたいはいこの桶山であった。	「優雅な水」『左沢小学校百年のあゆみ』	高橋藤五郎(大正 14 年卒)	
昭和前期	(いくさごっこ) 戦場は桶山城跡である。片や二本丸に陣取り、片や愛宕山に陣取る。	「高飛び込みといくさごっこ」『左沢小学校百年のあゆみ』	阿部順吉(昭和 4 年卒)	
昭和 7～8 年	(昭和初期農村恐慌の対策として、「県道左沢停車場線(左沢町字前田)より高松村ヲ経テ川土居村ヲ桶沢間ヲ寒河江線ニ達スル道路開鑿工事」(「天神越」と呼ばれる道について桶山公園の山を切り通し、勾配を緩めて馬車の通行が可能な道路とする工事)を実施。	「旧左沢町役場資料」『大江町史』近現代編	左沢町	この工事に際して、左沢在住の工事関係者が「ここからの眺望は日本一だ」と叫んだ。その後、町から現場に向かう労働者が「今日も日本一に行こうぜ」と挨拶を交わすようになったことが日本一公園の由来だと伝わる。
昭和 13 年	昭和 13 年子ども達の、猛烈な反対を押し切って、日本一公園の一番星はらしのよい所で、山住いをするようになった。(俳句を作ったのんびり余生を送りたい)	「嘯風亭」『左沢小学校百年のあゆみ』	海野貞一(昭和 12 年卒)	
昭和 16 年	桶趾は百目木の上にある山上は桶趾でありませう。此の桶には後に日野氏が居りました故に俗に日野館と申して居ります。	「寒河江城趾」『山形縣内に於ける古城趾の研究』	菅井半五郎	
昭和 16 年	左沢町百目木桜瀬橋より谷沢街道を北進し、左沢線の踏切を越えれば、左手に峡谷断崖を隔てて、数段の土塁段丘を控えた桶山が聳えているのが見える。土地の人は御本丸と称している。 (中略) 羽州に於ける官方の星たる左沢城の本丸である。 又左沢町より高松村桶沢に至る、天神越街道より右顧すれば、蛇沢の峡谷より土塁段丘に囲まれた、突如たる桶山の頂上に松樹の鬱蒼たるを見る。即海拔 222 m の地点で、その昔本丸の天守閣(後述)に相当する場所である。	「(一) 景観 一本丸」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	本丸より蛇沢を隔てて南方、丁度百目木の築の上の峯で、頂上は二段の土塁より成り、櫓の如く高く聳え、老樹の亭々たるを見る。土地の人は千畳敷と称し(実測 300 坪)、此の峯一帯が左沢城の二の丸に相当する。此の峯の西方即ち千畳敷の中腹に幅 23 間の空堀があり、陸を隔てて馬背の如き峯続きとなり、日本一公園より愛宕山に及ぶ。日本一公園の頂上の平坦に削平された場所を、俗に八幡平と称し、此の八幡平を中心とする。附近一帯の峯が左沢城の三の丸に相当する。	「(一) 景観 二の丸三の丸」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	本丸より二の丸にかけ、附近一帯に矢竹と称する竹の一種が繁茂している。古老の言によると、明治維新当時は、此の一帯が矢竹によって蓋はれた観があったとの事である。その昔城郭の一部に矢竹を栽培した事が考えられる。	「(二) 結構 五矢竹」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	左沢一代大江元時は桶を築くに当り、寒河江八幡の分霊を三の丸の頂点八幡平の地に勧請し齋まつた。(最初は本丸の八幡座後代城郭の天守閣に相当する場所即ち本丸の頂上に祭つたらしい) 依て一名八幡桶の称があった。 (中略) (酒井氏が小漆川に城を築いて) 遠隔険阻な八幡平の地より酒井大学の頭は、山麓字前田の地に、正徳年中奉遷鎮守とした。	「(二) 結構 六八幡神社」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	古語に『左沢は馬でなくては通れぬ所』と伝えられた如く、寒河江方面よりの陸路は特に険阻だったにちがいない。百目木附近に新道の開通されなかつた以前は、桜瀬橋附近から千畳敷の中腹を通過した。更に以前に於ては、千畳敷を一巡し、本丸との中間即ち蛇沢を上り、元屋敷に出た事も考えられる。	「(二) 結構 七道路」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	左沢の南方 2 km 余、西部街道を通り富沢に至る、最上川河岸の一部を開削した所に城見坂の地名がある。 (中略) 城見坂の地より、左沢城特に二の丸が最上川の曲流と相映し指呼の間望見する事が出来るので此の地名を生んだ。兎に角目標となる地点である。	「(二) 結構 八城見坂」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	左沢氏の世系絶えて後、平塩の日野氏が代わって左沢城を管理した。仍て一名日野桶とも称した。	「(三) 左澤氏」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 16 年	昭和 16 年 8 月 12 日、午前 10 時調査団一同左沢駅着、小漆川城跡より、愛宕山・日本一公園を経て午後 1 次本丸跡に到達す。午後 3 時下山	「左澤城調査団」『左澤城址』	沖津常太郎編	
昭和 10 年代	(小学校の高等科になると、夏は) 日本一公園の裏にある学校の畑で働いたり、どう前の上の方にある二番堤に、どろんこになりながらバケツリレーで土を選び田作りをした。	「「ほしがりません勝までは」の精神下で」『左沢小学校百年のあゆみ』	犬飼安太郎(昭和 19 年卒)	
不明	五月 遠足、修学旅行 一年生は、日本一公園、二年生は、慈恩寺で、三重の塔を見てきます。 (中略) 十月 いも煮会 秋晴れのもと、親子そろってのいも煮会。日本一公園や左沢中学校下の最上川川原で、各学年ごとに行われます。	「行事でつづる一年」『左沢小学校百年のあゆみ』		
昭和 31 年	名所旧跡 日本一公園 大江氏の居城である桶山城跡があり別名桶山公園と呼んでいる。全町を一望に見下す本町唯一の景勝の地で、春は花、秋の紅葉は美しく就中、旧 4 月の「高い山」は特にぎやかである。山頂までドライブウェイが開かれ近年川開の遠望亦格別である。	『左沢町勢要覧』	左沢町役場	
昭和 34 年	観光 水郷左沢 北部には山薬水明の地にふさわしい「日本一公園」があり別名桶山公園というのはたぶん桶山城跡に因んだものであろう。 名所 日本一公園 大江氏の居城である桶山城跡があり別名桶山公園と呼んでいる。全町を一望に見下ろす本町唯一の景勝の地で、春は花、秋の紅葉は美しく就中、旧 4 月の「高い山」は特にぎやかである。山頂までドライブ・ウェイが開かれ近年川開の遠望亦格別である。	『左沢町勢しおり』	左沢町役場	

表 6-6 楯山付近に関わる記述 3

時代	楯山城跡の記述	出典	記者	備考
昭和 37 年	日本一公園 昔の大江氏の居城である楯山城跡があり、別名、楯山公園と呼んでいる。たくさん赤松が生い繁り、春は緑の合い間にさきほこるさくら花と旧左沢の街を一望に見おろせる。ここからみると最上川にうつる兩岸の美しさはすばらしく、川開大会の遠望にも最適である。	『おおい 町勢要覧』	大江町	
昭和 37 年	ベンチ五基完成 日本一公園へどうぞ！ 展望のきくことと、手ごろな散策地として親しまれている日本一公園にこのほどベンチが5基おめえした。(中略)なお、町ではここ数年来、地元第一区の青年層の協力を得て、毎年約50本ほどの桜の幼木を日本一公園と最上川河畔にうえています	『町報おおい第22号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 37 年	眺望絶景の日本一公園に 最上川舟唄記念碑完成 最上川舟唄は、本町のシンボルといえるほど、今ではききてもきれいなものとなっていますが、今年はじめから準備を進めていた舟唄の記念碑がこのほど完成、10月11日、日本一公園で除幕式がおこなわれることになりました。	『町報おおい第25号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 37 年	「大江町左沢の案内」三、日本一公園 ここは、町立公園です。年よりが登って、「けしきがいいなあ、こりゃ日本一きれいだ」といったので、日本一と名がついたのだそうです。まがった道が多く英語道といっている道もあります。ぶどう園や沼もあります。山から見た最上川のけしきは、日本一のようなのです。	『はやせ』第17号	左沢小学校4年生	
昭和 39 年	きれいになった日本一公園 商工会の左沢地区ではさきごろ日本一公園へ登る道路の刈払いの奉仕をおこないました。これは豪雨などのため道路がこわれたり、雑草や木などがおい茂っているところを刈り払って、愛される公園にしようとして約230人が参加して労力奉仕をおこなったものです。	『町報おおい第45号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 39 年	「せみとり」 (8月10日ころ数人で)日本一までせみとりに行きました。その途中おふどう様のちよっと上で、せんちゃんが練習といつて、あみでつかまえるまねをした	『はやせ』第19号	左沢小学校6年生	
昭和 41 年	日本一公園を整備 町民のいこの場として、日本一公園は長く親しまれてきましたが、近い将来、近郊都市から多くの観光客を迎えるためには、大幅な整備をおこなわなければなりません。整備にあたってはまず、県土木部計画課に実地調査を委託しその結果にもとづいて総合的な計画をたて、都市計画にもとづく公園として約9百万円の事業費をみこんで整備に着手することとしています。	『町報おおい第61号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 41 年	「遠足」 (遠足の)いさききは日本一公園ですが、ぼくはうれしくてうれしくてじっとしていられませんでした。(中略)字をこんなふうにして書いて先生にしたら「日本一公園みたいで上手だな。」といいました。	『はやせ』第21号	左沢小学校3年生	
昭和 41 年	左沢10、11区の老人たちで作っている「後楽会」では5月14日、日本一公園の清掃に一日奉仕しました。	『町報おおい第66号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 42 年	「わたしたちの郷土」 日本一公園から見る、最上川の美しいけしきも、とてもすてきです。この最上川は、昔、酒田まで船で荷物を運ぶ重要な交通路だったそうです。	『はやせ』第22号	左沢小学校5年生	
昭和 44 年	「日本一公園に水銀灯！ 一愛の贈灯運動みのる」 新設された日本一公園の水銀灯は、夏の夜空をさん然とてらし健全なレクリエーションの散策地として今後ますます町民のいこの場として輝きを増すこととなり将来の、都市公園計画のさきかけとしても、観光振興の上に多大の貢献をすることとなるでしょう。	『町報おおい第105号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 45 年	「日本一公園 造園計画まとまる」 日本一公園は左沢駅のすぐ北側に標高200mの高低い山で県道新庄～左沢線が通っているなど比較的交通の便にめぐまれていること、最上川のながめや、はるかに朝日連峰、蔵王などが一望に見わたせる風光明媚な場所だけに、町民の手頃な散策地としてひろく活用されてきました。(中略) しかし、眺望はいかに良くとも、町外から観光客を寄せるためには、これといった施設もなく、ほんとうの名前だけの公園となっていました。 そこで、町や観光協会では、このめぐまれた自然環境を十分活用、町づくりとあわせて、観光開発にむすびつけようと、数年前から本格的に日本一公園の整備を検討してきました。	『町報おおい第111号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 46 年	「日本一公園」 昔の大江氏の居城である楯山城跡があり別名楯山公園と呼んでいる。松の古木とたくさん赤松が生いげり、春は緑の合い間にさきほこる桜花が美しい。また左沢の街なみと最上川の流れがコントラストをなしそのながめはじつにすばらしい。	町勢要覧「おおい」	大江町総務課	
昭和 48 年	幼いころから親しんだ日本一公園楯山には、県立少年自然の家がつくられ、古寺の分館とあわせて、県下の少年たちに自然のすばらしさと希望を与えていく日も近い。	「思いを新たに開校百年を祝う」 『左沢小学校百年のあゆみ』	山形県知事 板垣清一郎	
昭和 48 年	「少年自然の家 本館工事順調に」 県内少年の夢をのせた少年自然の家の起工式が九月一日、大江町楯山(日本一公園)の建設現場でおこなわれました。来年三月の完成をめざし急ピッチで工事をすすめる来春六月の開館にそなえることになっています。	『町報おおい第152号』『広報おおい』縮刷版	大江町	
昭和 49 年	「さんぼ」 正月の二日に、両親と兄の四人で、日本一公園にさんぼに出かけました。元日に日本一公園に行くのが、わたしの家の行事の一つのようになってしまいました。公園から私達の町、左沢を見おろして、すがすがしい山の空気を胸いっぱいすいこんだ時から、新しい年が始まるような気がします。	『はやせ』第29号	左沢小学校5年生	
昭和 51 年	「さんぼ」 きょうは、元旦です。おかあさんと妹とわたしで日本一こうえんにさんぼに行きました。いくとちゅうへんな足あとを見つけたので、「おかあさん、これ、なんの足あとだべ。」と、聞くと、「たぶん、くまかな。きつねかな。」 「やんだ。くまが 出るげば 帰るべは。」と いった。 「この 日本一に くまなど 出ないよ。」と わらっておかあさんは いった。	『はやせ』第31号	左沢小学校2年生	
昭和 53 年	左沢は五百川を経て置賜郡荒砥に通ずる道路の要地で、地理上遙く長井氏の足利勢に封抗する大江氏にとっては、軍事上極めて重要な土地であった (中略) 館の結構は功に天険を利用した自然の要塞で三の丸から成る一即ち南方は最上の大河に迫り、東部より北部にかけて深谷と絶壁の断崖を擁し、北の富山、北東の平野山、東の鏡山等も其の外郭をなすものである。 (中略) 二の丸は本丸より北沢を隔てて南方に位し、二段の土塁より成り老樹々々たる櫓の如く見える。俗に千畳敷と称する所である。千畳敷の西方の中段にある幅23間の空堀を隔てて連続した場所を平らに削った後は、俗に八幡平と呼ぶ三ノ丸である。 (中略) 本丸の天守閣に相当する所を八幡座と称するのは、八幡神社を最初に齎った場所であるらしく、一名八幡櫓とも呼ばれている所以である。	『左沢氏』『最上四十八館の研究』	丸山 茂	「註この編沖津常太郎編『左沢城跡』による」

表 6-7 楯山付近に関わる記述 4

時代	楯山城跡の記述	出典	記者者	備考
昭和 54 年	「日本一公園の名称結構」 山形市の繁華街より移り住んで、正直なところこの日本一公園の名称には驚き、「日本一何もない公園」と思ったのですが、年がたつにつれ何度も散歩しているうちに、その昔ここを越えて左沢に来た人が、日本一といった風流な心が理解されるような気がしています。 しかし、他の町から来た客を案内するには貧弱すぎるのは確かで、[個人名省略] 氏の主張もわからなくはありません。必要なのは、町民が日本一になり、町民が日本一と誇れるような公園にすることではないでしょうか。(中略) 小生が日本一公園を最初に散歩したときは、「藤の花」が満開でした。これほど自然に美しく咲いている公園は、日本のどこにもないと思いましたが、今では誰かが庭に移植してあまり咲いていません。日本一の「藤の公園」にもどしたら日本一の公園になるのではないかとと思うのですが……。	『町報おえ第 215 号』『広報おえ』縮刷版	大江町	
昭和 54 年	「すばらしい名称『日本一公園』」 日本一公園それは素晴らしい良い名前であり、そしてその公園が大江町内にある事をたいへん誇りに思う一人です。 その昔、舟運で栄えた左沢の全景、俳聖芭蕉が「五月雨を集めて早し最上川」と詠んだ雄大な最上川の流れ、遠くは朝日連峰等を一望に取める日本一公園は、実に眺望絶佳と言えよう。 日本一の公園として見た場合は、誠にお粗末ですが、[個人名省略] さんが言うとおり、公園の周辺に藤を大々的に植え、藤の日本一公園として完成することもやれば出来ると思います。そして、もし実現したならこんな句を作ってみましたと思います。 「藤咲けばこれぞ公園日本一」とにかく、町民の憩いの場として重要な役割を果たす公園だと思いますので、町民で積極的に立派な公園に育て上げていかなくてはならないと思います。	『町報おえ第 216 号』『広報おえ』縮刷版	大江町	
昭和 54 年	「初日の出」 日の出を見に行った。 日本一公園に行った。 うす暗い東の空を見て 待っていた。 山と山の間から 赤い光がさしてきた。 太陽が半分顔を出した。 暗かった空が 急に明るくなった。 ぼくは、まぶしさで、 目をつぶってしまった。	『はやせ』第 34 号	左沢小学校 5 年生	
昭和 55 年	「楯山公園にあづまやを寄贈」 大江ロータリークラブでは、このほど楯山（日本一）公園にあづまやを建設し、町に寄贈してくださいました。(中略) かつては、楯山公園にもあづまやが建っていましたが、長い間風雪にさらされ破損もひどく昭和 30 年頃にはその姿もなくなってしまいました。(中略) このあづまやは「楯山亭」と名づけられ、いこいの場として公園を訪れる人たちにたいへん喜ばれています。	『町報おえ第 235 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
昭和 56 年	「楯山公園の整備を」 楯山（通称日本一）公園は、ながらく町民の憩いの場として親しまれてきたことは、町民広くご承知の通りです。 少し前になりますが、その楯山公園の整備が叫ばれ、実施計画も検討せられ、その広場を拠点としての町発展が期待されていた記憶があります。ところが丁度その時期に、朝日少年自然の家誘致問題がもちあがり、整備が予定されていた土地が、民地も含めて県に寄附された経緯があります。(中略) 楯山一体をながめて見ますと、広場をつくるぐらいの土地はまだあります。町報などに数回にわたって各層の方々から楯山公園の整備が提起されておりますが、その気配がなくなってしまうようになっておりました。幸いに、昭和 55 年度に作成された「過疎地域振興計画」に楯山公園整備計画がもちこまれておるようで大変うれしく思っているところでありますが、計画だおれにならないよう心からお願ひします。	『町報おえ第 243 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
昭和 58 年	「地そう見学」 秋に、理科の時間で勉強した地そうの観察に行った。(中略) 見学地は、日本一公園を中心としたものだった。	『はやせ』第 38 号	左沢小学校 6 年生	
昭和 59 年	「あけびもぎ」 十月二日(日) お母さんとあけびもぎに行きました。(中略) おふどう様の左の道に登って行きました。 (中略) また、日本一公園まで歩いて行ったら、あけびの木がありました。 (中略) やっと日本一公園に着いたので、いすにすわって、ガムとりんごを食べました。	『はやせ』第 39 号	左沢小学校 3 年生	
昭和 62 年	「日本一こうえんに行った」 きょう、ぼくは日本一こうえんに行ってきました。 さいしょに、ぼくは古い学校を見ました。 (中略) つぎに、かいだんを上げて一番高いところへ行きました。そしたら、どこかのおじいさんがせきを見ていました。(中略) こんなにさわいのに、あのおじいさんはやけいを見るまでまっているのだときてびっくりしました。	『はやせ』第 42 号	左沢小学校 2 年生	
昭和 62 年	「開運を祈って 高い山」 5 月 17 日、楯山(日本一)公園で大江町商工振興会が主催して「高い山」が催されました。高い山に登ると願いごとがかんうと言われ、虚空蔵様をお参りし、開運を祈る信仰行事の高い山。 以前は、楯山でも旧暦の 4 月 17 日ともなれば幾組も宴が設けられ、終日、酒盛りや歌に大変な賑わい様だったと聞かれます。 この日、高い山はちょうど日曜日とあって、150 人も参加者でにぎわい、ハヤの塩焼きに舌つみみを打ちながら昔を懐かしんでおられました。	『町報おえ第 316 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
昭和 62 年	最上川が山形平野に出る口で大きく蛇行した地点、左沢の町の北東の楯山にある。尾根続きの西方は楯山公園で、朝日少年自然の家などが建つ。 (中略) 城域は 1 (八幡座) を中心とする山と公園内に取込まれた 4 (八幡平) 周辺、それに東南に延びる尾根上の 3 (千畳敷) 周辺の三地区よりなる。	『左沢城』『図説中世城郭事典 第一巻』	村田修三編 (新人物往来社発行)	新人物往来社発行
昭和 63 年	「楯山公園で高い山と最上川舟唄碑祭」 5 月 22 日、楯山公園で高い山と最上川舟唄碑祭が催されました。 高い山では、家族や近所同士で手料理を囲むほほえましい光景がみられました。 一方、舟唄碑前では関係者多数が出席して、神事のあと最上川舟唄の踊りが披露されていました。	『町報おえ第 328 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
平成元年	「楯山公園にもサクラの苗木」 (財)自治総合センターのコミュニティ助成事業で、サクラの苗木 48 本が楯山公園に植えつけられました。これは、100 万円の助成に 20 万円をプラスして町が行ったものです。 苗木といっても高さが 4m もあり、この春には花が咲くということです。	『町報おえ第 335 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
平成 2 年	「愛宕・秋葉・虚空蔵と不動尊を祭り 愛宕山神社再建なる」 愛宕山神社再建実行委員会がかねてより建設を進めていた愛宕山神社が完成し 5 月 27 日、開眼法要落慶式が行われました。(中略) 愛宕山神社は、風雨のため老朽化し、倒壊し、その残骸が残っているだけとなってしまい、同委員会が立ちあがり、今回鳥居とともに再建したものです。 再建された愛宕山神社は、愛宕、秋葉、虚空蔵の三尊とさらに不動尊が祭られました。	『町報おえ第 352 号』『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	

表 6-8 楯山付近に関わる記述 5

時代	楯山城跡の記述	出典	記者	備考
平成 3 年	「楯山公園（日本一公園）に巨大クリスマス・ツリー出現」 （大江町商工会青年部では）楯山公園（日本一公園）に高さ約 25 メートルの巨大クリスマスツリー（数百個の電球をちりばめたツリー）を部員全員の手で作りました。	「町報おえ第 370 号」『広報おえ』縮刷版第 2 巻	大江町	
平成 6 年	「ロマンを秘めた町の歴史」 （5 月に「山形県城郭研究会大会」が開催され、左沢楯山城の調査成果が報告された）それによると左沢楯山城跡は巨大な山城であることや、左沢氏の「居館」、最上川の河岸と町場が一体となって、戦国都市を形づくる貴重な文化遺跡であることが明らかになり、にわかに脚光をあびはじめました。	「町報おえ第 400 号」『広報おえ』縮刷版第 3 巻	大江町	
平成 7 年	「楯山公園に散策路を」 楯山公園を散策する時に、朝日少年自然の家によって、「通せんぼ」になっているような感じがします。愛宕様から舟唄碑までのコースは、一番ながめのいいところなので、ここに一本の散策路をつくってほしいと思います。県とのかかわりがあると思いますが、ぜひ実現してほしいと思います。	「町報おえ第 415 号」『広報おえ』縮刷版第 3 巻	大江町	
平成 10 年	左沢駅の北側の高台にある楯山公園から、朝日連峰・蔵王の山々をバックに、東に大きく迂回する最上川の雄大な流れを見ることが出来ます。その雄大な眺めから、楯山公園は日本一公園とも呼ばれています。夕暮れ時には、街灯や家々の明かりが灯りだし、幻想的な風景が楽しめます。	「大江町大字左沢字楯山（楯山公園・最上川舟唄碑前）左岸」『最上川電子大辞典』	国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所	最上川ビューポイントとは、山形県の「母なる川・最上川」への関心と愛着を深めることを目的として、最上川の良好な眺めを得られる地点を公募し、県内外から寄せられた 258 件 129 ポイントの中から、最上川ビューポイント選定委員会（委員長：横山昭男山形大学名誉教授）により選定された、次の 11 景（「選定委員の推薦する地点」：1 地点含む）のことを指す。
平成 11 年	楯山公園から見る最上川は、大きく曲流し悠々と流れています。左沢の街並み、広大な田園風景や月山・朝日連峰・蔵王連峰は美しく、訪れる人の心をとらえて離しません。	「楯山公園からの最上川」『山形地域の絵になる風景』	山形地域観光振興協議会	
平成 12 年	「大江町の花火はすごい」 ジュースを買ってもどる時、日本一公園の方からも、打ち上げられていました。	『はやせ』第 55 号	左沢小学校 5 年生	
平成 13 年	「大江町の歴史探検隊」 楯山城の見学では、おどろくことがいっぱいありました。何でもこんな山奥に城があったのかなあと思っていたら、「ここは、ながめがよくて、敵が攻めてくるのがわかる。それから、ながめはいいが、周りは林で囲まれていて、城が見えにくい。」と、わけをやさしく教えていただきました。山の城を築くことは、自分達の身を守るためなのだと考えました。	『はやせ』第 56 号	左沢小学校 6 年生	
平成 13 年	「楯山公園のトイレが新しく！」 町の観光名所で最上川ビューポイントの一つにも選ばれている楯山公園（日本一公園）のトイレが新しくなりました。（中略）これまでのトイレは、設置されてから 20 数年が経過したため老朽化が目立ち、水洗化もされていませんでしたが、改築後は、バリアフリー構造のモダンなデザインに生まれ変わりました。	「町報おえ第 483 号」『広報おえ』縮刷版第 3 巻	大江町	
平成 13 年	ここから眺める最上川、朝日、月山、蔵王連峰の山並みは素晴らしく、大江氏左沢元時が正平年間（1346～1370）に構築したとみられる左沢城跡（楯山城）があります。	「楯山公園」『おえ満タン！観光 GUIDE』	大江町（商工観光課：当時）、大江町産業振興公社	平成 13 年から『最上川舟運の港町』発行の平成 16 年頃まで配布していた大江町の観光パンフレット
平成 14 年	♪ヨーエサノマガシヨ エンヤコラマーガセ。最上川舟唄発祥の地。楯山公園には舟唄碑がある。ここからの眺めは県土景観ガイドプランにある市街地、田園、樹林地へと続く県の特徴的景観の集約といえる。	「大江町・最上川舟唄のふる里」『遊歩百選』	「遊歩百選」事務局（読売新聞大阪本社事業局スポーツ事業部）	
平成 16 年	公園からは山形の母なる川「最上川」の雄大な眺めが楽しめるほか、西に朝日連峰、東に奥羽山脈が遠望でき最上川ビューポイントの一つにも選ばれた場所です。最上川舟唄碑も建立されています。	「楯山公園（日本一公園）」『最上川舟運の港町おえ』	大江町（産業振興課：当時）	平成 16 年から配布している大江町の観光パンフレット
平成 19 年	楯山公園は大江氏の城跡で、別名「日本一公園」という愛称で親しまれています。ここからの最上川の眺めは最高！！	『最上川舟運の港町大江町左沢散策マップ』	大江町産業振興課・大江町観光物産協会	町発行の散策マップ
平成 20 年	楯山公園は、大江氏の城跡で最上川と左沢の街を見下ろす山の頂上にある。その眺望の素晴らしさから、日本一公園とも呼ばれている。	「楯山公園と水郷左沢」『やまがた観光虎の巻 観光基礎知識ミニハンドブック』	山形広域観光協議会（山形県村山総合支庁観光振興室内）	「村山地域のタクシードライバーさん必携！」
平成 21 年	“最上川”は、五百川峡谷（白鷹町荒砥～大江町左沢）の出口にあたるここ左沢で、山塊にぶつかり大きく流れの向きを変えます。湾曲する雄大な流れと、整然と広がる左沢の町並み、田園風景、朝日連峰や蔵王、白鷹の山々などを見渡せる山上の楯山公園からの眺望は、最上川の景観の中でも特に絶景とされています。最上川に架かる数多くの橋の中で村山地方でただ一つ最上の名が冠されている 3 連りアーチの旧“最上橋”（平成 15 年土木学会推奨遺産認定）が川面に影を落とし、時折り見せる眼鏡の姿が、地元の人々から“メガネ橋”の愛称で親しみを込めて呼ばれています。	「最上川～歴史を伝える“母なる川”～」『大江町誕生 50 周年記念 町勢要覧 四つの表情（シーン）に見る大江町』	大江町	
平成 21 年	左沢楯山城跡 左沢市街地を見下ろすように聳え立つ楯山（標高約 180 メートル）。そこには 14 世紀後半に大江元時によって築城され、此の地に威容を誇った左沢楯山城がありました。	「おえの文化財～先人達が築き上げた悠久の輝き～」『大江町誕生 50 周年記念 町勢要覧 四つの表情（シーン）に見る大江町』	大江町	

第 I 部 保存調査編

表 6-9 楯山付近に関わる記述 6

時代	楯山城跡の記述	出典	記者者	備考
平成 22 年	「きつかった山登り」 山の方へずっと歩いて行ったら、おかげじぞうの所に着きました。お参りをして上に登っていくと、日本一公園に着きました。 「きれいな」と思わず声が出ました。それぐらい景色がよかったです。最上川がよく見えました。そこで休けいをして、石ひの前で写真を撮りました。そこは、多分、江戸時代にあった、山しろのあった所です。そこから下っていく階段は、すごく急でこわかったです。	『はやせ』第 65 号	左沢小学校 4 年生	
平成 23 年 12 月現在	楯山左沢城、日本一公園（楯山公園） ・大江（左沢）元時が朝廷が二つ存在した南北朝時代（1338～1392）の 1346 年頃に楯山城を築く。当初寒河江大江氏は南朝方。後北朝方となり所領安堵される。広元が地頭となつてから 157 年、長男親広が隠れ住んでから 125 年、その子孫の大江元時らが逃れ来てから約 60 年後に築かれた山城。最上氏が改易（1622）になるまでの 276 年間にわたって使われたと伝わる。 山城は何度かにわたり拡大整備されたもので全国有数の規模であると言われる。 ・日本一の名前は楯山を越える道路整備の際、工事に携わった人達が眺望があまりにも素晴らしいことに驚き「ここは日本一の眺めた！」と言ったことから、いつの間にか「日本一さいくべ」ということになったらしい。 ・大江町の町名の由来もこの楯山にある。中国の漢詩に「金陵雨花台に上りて大江を望む」というのがあり、これは南京にある「金陵雨花台」から揚子江を眺めた様を言っているのであるが、規模こそ比較にならないものの楯山から最上川を眺めた様と良く似たようであることから「大江」の名をとり「おおえ」と名づけている。時の県知事安孫子藤吉氏の命名。 ・楯山からの眺望は最上川約 230km の中でも絶景で、画家や写真家をはじめ県内外から多くの方が訪れる。 ・昭和 37 年最上川舟唄発祥の地であるこの景勝の地に「最上川舟唄碑」を建立。安孫子藤吉知事の揮毫である。除幕式には知事を始とする著名人が多数出席した。 ・平成 9 年最上川ビューポイントに。平成 14 年読売新聞主催「日本遊歩百選」に「最上川舟唄のふるさと」として選定された。	「楯山左沢城、日本一公園（楯山公園）」『大江町観光ガイドマニキュアル』	大江町観光ボランティアガイドの会「舟唄の里案内人」	
平成 24 年	大江町を訪れたなら、ぜひ見てほしいのが「日本一公園」こと楯山公園から眺める、最上川の雄大な流れ。観光ガイドの話聞きながら、舟運時代に思いを馳せるひとときを。	『西村山エリア大江町 最上川の雄大な流れにうっとり 町屋づくりの旧家や蔵も美しい』『花・食・歴史 やまがた花街道 出かけよう満開のやまがたへ。』	J R 東日本旅客鉄道株式会社	J R 東日本花・食・歴史やまがた花回廊 2012 年 4 月～7 月パンフレット
平成 24 年	最上川ビューポイントのひとつに選ばれている日本一公園で、最上川の絶景を楽しみます。	『蔵と土塀と桜情緒ある左澤のまちなみ散策』『駅長オススメの小さな旅&小さな旅行プラン』	J R 東日本旅客鉄道株式会社	J R 東日本小さな旅 2012 年 4 月～7 月パンフレット
平成 24 年	「大江の山城にとう着」 ぼくは、総合「左沢の名物をさぐるう」で、左沢の山城について調べることにしました。（中略） 階段も急でしたが、と中小川があったりして、とても自ぜんにあふれていました。だけど竹があるのがふしぎだったので、お父さんに聞いてみると、「それは、矢の一部に使うんだよ。」と教えてくれました。	『はやせ』第 67 号	左沢小学校 3 年生	

## 第7章 最上川の流通・往来及び左沢町場の景観

左沢町場の景観は、当地の地理・地形的な環境に根差し、最上川舟運を通じた交易などの流通・往来、西村山郡西部における政治的・経済的な中心地の形成という複合的な要因によって成立した、居住と商業に関する独特の文化的景観である。

最上川は西吾妻山を源流とし、山形県内を貫流して酒田で日本海に入る、流路延長 229 k m の河川である。大江町の左沢は、置賜盆地から五百川峡谷を流れ下った最上川が、村山盆地に流れ出た谷口に位置する。南から流れる最上川は左沢で楯山に突き当たり、その麓でカーブを描いて南東へと流れの向きを変える。楯山南側にあたる最上川の攻撃斜面には急崖が形成され、かつて、その地形を利用した山城が築かれていた。

楯山は、左沢市街地の北側に位置し、市街地と比高差が約 100 m の丘陵である。コナラ・カスミザクラ、クヌギの群落が分布し、かつて薪炭などに利用するため定期的な伐採が行なわれて形成された植生がみられる。また、眼下には最上川が曲流する地点と左沢の市街地、遠くには東の奥羽山脈から西の朝日山地までを一望できる通称「日本一公園」が所在し、公園には最上川舟唄碑が建てられている。

西の朝日山地から流れる月布川は、楯山麓のすぐ上流で最上川に合流する。大江町では、月布川に沿って集落が展開している。これらの集落では、かつて焼き畑農業により、最上川舟運を利用して移出された青芋が栽培されていた。そして、最上川と月布川の合流点付近の谷口に、これらの農山村集落を後背地とする左沢の町場が展開している。

西村山郡の歴史において、左沢に置かれた城の存在が確認されるのは中世以降である。左沢は、最上川に沿って置賜から村山盆地に抜ける交通の要衝にあたる。

近世左沢には最上川舟運の河岸があり、米や青芋などが船で積み下された。最上川舟運は、左沢に伝わる百目木甚句に「松前のニシン」「京の友禅」「博多帯」とうたわれるように、内陸の左沢においても広域における流通・往来を形成した。当地の特産物であった青芋は、最上川舟運と日本海の西廻り航路を経て、近江や奈良、小千谷や能登などに移出され、町場左沢のみならず、農山村にまで富をもたらした。このような広域における流通・往来を背景とした左沢の商業活動や祭礼が、現在の中央通り商店街や原町通りの店蔵が分布する街並み、秋まつりに出演する御免町や内町の囃子屋台を成立させている。

また左沢では、17 世紀前半に左沢藩主となった酒井直次によって小漆川の舌状台地に城が築かれ、台地と市の沢川によって隔てられた段丘上に城下町が建設された。

19 世紀前半の絵図面には、置賜へ至る「西部街道」の道筋や分水界に沿った内町・横町、原町などの通りや、城下町の特徴である鉤型や丁字型の道を確認することができる。これらは、改変を受けながらも現在の左沢市街地に受け継がれている。

また、絵図面には「御家人」が東町の代官所付近と小漆川城跡に居住し、商人や職人などの「町人」が内町・横町や原町、御免町などの通り沿いに居住した様子が描かれており、この居住形態は、現在の地割や土地利用に反映されている。町人が居住した通り沿いには短冊状の地割が並び、通り正面から商店建築、住宅、土蔵と続く土地利用のあり方が確認できる。このような土地利用は、中央通り商店街で商業地域の内町・横町や土蔵が並ぶ原町などでみることができる。

さらに左沢は、「大井沢街道」を通じて月布川流域の農山村と経済的に結びつき、両者の互惠関係のもと左沢の繁栄が成り立っていた。また、農山村や左沢は、関東など村山郡以外の出羽三山行者が往来する土地であった。

山形県内の最上川舟運河岸や船着場があった集落の中でも、左沢はこれら複数の流通路や往来が交差し、先にみたとおり政治的な拠点としての構造を持つことから、河岸以外の要素が複合して形成された特徴的な景観が形成されている。

## 第 I 部 保存調査編

明治 30 年代には舟運が衰退し、大正 11 年には左沢－山形間の鉄道が開通することで、日本海から水運によって全国と結びついた往来は、山形県の内陸部へ向かうことになる。前田に開業した左沢駅を中心とした新しい道路と街並みが形成され、旧来の町場と一体化して現在の景観が形成された。

現在も、中央通り商店街や御免町通り、原町通り沿いの旧来からの町場では、屋号を冠した商店などの小売業が営まれる。そして、居住者が担い手の中心となった御免町や七区の囃子屋台が秋祭りで町中を練り歩き、1 月と 3 月には初市とひな市が開かれている。左沢駅前では旧来からの町場に結びつく道路が駅から放射状に造られて、駅周辺には飲食店や輸送業などの店が営業している。

このように左沢では、最上川が峡谷を流れ出て大きく曲流し支流の月布川が合流する谷口において、城下町の建設や、最上川舟運などの複合的な流通・往来によって育まれた暮らしをあらわす文化的景観、「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が形成されている。